

西班牙ハ戰爭中常ニ能ク其ノ中立ヲ確守シ何等ノ侵害ヲモ被ラザリキ吾人ハ西班牙カ如何ナル種類ノ獨逸潛航艇タルヲ問ハス之ヲ抑留スヘシトノ不法ナル處置ヲ變更センコトヲ希望ス特ニ適用潛航艇ハ獨逸西間現時ノ通信ヲ維持スヘキ唯一ノ方法ニアラスヤ且西班牙ハ大海軍力ナキ諸國カ英國ノ海上專横ニ反抗スヘキ最モ有效ナル武器ハ潛航艇タルコトヲ忘却セサルナラン潛航艇ノ活動ヲ抑制スル規定ハ是海ノ自由ヲ妨害スルモノニシテ從テ西班牙ノ利益ト相容レサルヘシ云々ト

(三) 西班牙ノ獨逸潛航艇抑留ニ對スル「ル、タン」

紙ノ論說

(大正六年七月三日附報告)

UC第五十二號カ猶西國カティス港ニテ修理碇泊中佛國「ル、タン」紙ハ左記譯文ノ如キ論說ヲ掲載シ國際法並ニ「ヘーグ」條約ニ照スニ右獨逸潛航艇ハ西國政府ノ須ラク抑留スヘキモノナルコトヲ德憑セリ

獨逸潛航艇UC五十二號ハ今猶カティスニ滯泊セリ近電ノ報スル所ニ依レハ遠カラス出發スヘシトノ事ナルモ吾人ハ之ヲ信スル能ハス如何トナレハ若シ西班牙カ之ヲ抑留セサルニ於テハ西國ハ中立ノ原則ヲ犯スコト、ナレハナリ今之ニ關スル事實ヲ見ルニ六月十一日八時半右潛航艇ハ無線電信ニヨリテ救助ヲ求メタリ警戒ノタメ其ノ附近ニ遊弋セル西國ノ二

隻ノ水雷艇ハ直チニ之ニ赴キ港口ニ向ツテ之ヲ護送セリ西國海軍省ヨリ派遣セラレタル一砲艦ハ右潛航艇ノ曳船トナリ之ヲカティスニ導キ來レリ蓋シ潛航艇ノ救助ヲ求メタルハ自巳ノ力ニヨリテ航行シ能ハザリシヲ以テナリ聞ク處ニヨレハ右潛航艇ノ破損ハ該艇内ノ大砲ヲ發射セルカ爲メニ起レルモノナリ何故ニ同艇ハ發砲セルカ又聞ク處ニヨレハ其破損ハ單ニ外部發動機ニ故障アリタルナリ然ラハ港口ニ達スル爲メニ彼ハ何故ニ其ノ沈潜發動機ヲ使用セザリシカ

右ノ事實ハ先ツ差當リ海牙條約第十三號ノ第十二、十三及十七條ニ據リ且國際法カ中立國ニ許與セル庇護權ノ問題ヲ惹起ス而シテ中立國港ニ於ケル潛航艇ノ滯泊期間並ニ許可セラレヘキ修理ノ性質ニ關スル事ハ既ニ屢々議論セラレタル處ナリ換言スレハ其ノ修理ハ航行ノ安全ニ缺ク可カラサル程度ニ於テノミナサル、ヲ要シ如何ナル方法ニ依リテモ決シテ其ノ戰鬥力ヲ增加セシムヘカラス

尤モ本問題ハ他ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルコトヲ得ルカ如シ即チ庇護權ハ本件ノ場合ニ於テ主要問題トナルモノニ非スシテ寧ロ中立自體ニ關シ中立國カ交戰國ニ對スル義務トシテ之ヲ論ス可キモノタリ

潛航艇ヲ救ヒタルモノハ西國ノ軍艦ナリ之ヲ港内迄曳航セル處ノモノハ西國國家ノ砲艦ナリ此時UC第五十二號ハ多分戰鬥ノ結果ニ依リテ破損ヲ生シタルカ爲メ他ノ救助アルニアラサレハ港口ニ達スル能ハザリシナリ然レハ潛航艇ハ坐礁スルカ沈没スルカ又ハ敵手ニ落ッルカ三者其一ニ出ツルヲ免レザリシナリ

然ルニ前述ノ如キ西國ノ行動ハ中立國ニ課セラレタル義務ヲ脱出スルモノニアラサルカ西國ハU.C.第五十二號ヲシテ再ヒ活動スルヲ得セシムル爲メニ庇護權ヲ援用シテ自家ノ行動ヲ辯護メントスルカ

抑モ中立問題ヲ研究セル諸大家ノ學說ニ隨ヘハ中立トハ戰爭ニ關シ雙方ノ交戰國ニ對シ完全ニシテ自確實ナル公平ヲ保チ全ク何等ノ行動ヲ執ラサル狀態ヲ指スモノトス中立トハ全ク消極的ナル普遍的性質ヲ有スル義務ヲ負ハス所ノモノ是ナリ詳言スレハ全ク何事ヲモ爲サ、ルコトノ義務タリ此等ノ義務ハ確乎決定ノモノナルヲ以テ中立國ハ凡テノ敵對行動ニハ全ク與ラサルコトヲ要ス隨テ戰爭ニ關シテハ直接間接ニ何等關與スルヲ得サルナリ假令中立國カ其ノ港内ニ交戰國ノ船艦ヲ庇護スルノ權利ヲ認許セラル、トモ其庇護タルヤ如何ナル場合ニ於テモ戰爭行為ヲ行フカ爲メノ方法ニ使用ス可カラサルナリ

西班牙カU.C.第五十二號ニ對シテ不行動ノ態度ニ居ラサリシコトハ明白ナリ西國ハ之ヲ救ヘリ之ヲ補助セリ西國ハ中立ノ大則タル不^{ノインテンタルバシヨ}干^干與ヨリ脱出セリ且中立國カ干與シ得ル場合ハ海牙條約第十三號ニ規定セリ其干與ナルモノハ水先案内者ヲ給與スルノミニ止マリ是ヨリ以上ハ一步モ出ツヘカラス其ノ第十一條ニ曰ク『中立國ハ其ノ公許水先人ヲ交戰國軍艦ノ使用ニ供スルコトヲ得』ト右條約ハ中立國トシテハ是以外ノ行動ニ出ツルコトハ全ク豫見セサリシ所ナリ一國家ノ砲艦ヲ以テ交戰國ノ軍艦ノ曳船トナルノ事實ハ之明カニ中立國カ戰爭ニ關與シタルモノタリ此場合ニ於テ西班牙ハ獨逸ノ敵國タル交戰國潛航艇ニ向ツテモ亦同様ナル待遇ヲ爲ス意思ナリシトノ事ヲ以テ之カ辯疏ト爲スヲ得ス里斯本海

軍學校教授カルロス、テスタ氏ハ其著國際公法ニ於テ豫メ此等ノ辯疏ニ答ヘテ曰ク中立國ノ行動ハ交戰國ノ一方又ハ他方ニ對シテ消極的ナラサル可カラスト蓋シ交戰國ノ一方又ハ他方ニ援助ヲ與ヘナカラ尙中立ナリト稱スルカ如キハ不道理ニシテ且不可能ノ事ナレハナリ氏ハ論シテ曰ク、中立トハ不于與ナリトノ原則ヲ立テナカラ而カモ公平ニ之ヲ實行セサル如キハ之眞ニ不德義ト云フ外ナシ如何トナレハ其眞率ト大膽トヲ缺ケハナリト

論シテ茲ニ至ラハ西國政府ハ或ハ其于與ヲ辯疏スルカ爲メニ人道ノ大則ニ基キテ爲シタルナリト託言シテ下ノ如ク言フナル可シ曰ク潛航艇乗組員ノ死没セルヲ坐視スルニ忍ヒスト成程一應ハ尤モナリ然レトモ人道ノ大則トハ人命ヲ救フニ止マリテ其ノ乘ル處ノ船ニハ及ハサルナリ軍艦ノ船體ヲ救ヒ且之ヲ修理シテ再ヒ之カ海賊的行動ヲ執ルヲ得セシメナカラ人道ノ大則ナリト託言スルカ如キハ誠ニ以テ片腹痛キ至リナリ且人道ノ大則ハ不于與ノ原則トハ相一致スルモノナリ曾テU.第五十三號カ^{New Ports}テ發シ船艦ノ破壞ヲ行フニ當リテヤ米國水雷驅逐艇ハ^{Yantrucket}燈臺附近ニ於テ右潛航艇カ汽船ヲ擊沈スルヲ妨害スルカ爲メニハ于與スルヲ爲サス唯船客及乗組員カ遭難船ヨリ舢舨船ニ遁レ入りタル時ニ之カ救助ニ盡力セシノミ換言スレハ米國船ハ其船體ヲ保護スルコトヲ爲サスシテ唯人命ノ救助ニノミ從事セリ

米國ノ如上ノ行動ハ眞ニ能ク人道ノ大則ト不于與ノ原則トヲ合セテ實行シタルモノト云フヘシ而カモ西班牙ハ之ヲ知ラサルカ如ク裝フモノ、如シU.C.第五十二號カ安全ニカティスニ到着シタルハ之全ク西班牙政府ノ御蔭ナリ獨逸カ該艇ヲ保有スルヲ得ルハ全ク西班牙ノ

賜ナリ故ニ若シ西班牙カ獨逸ニ該艇ヲ引渡ストセンカ之全ク西國ハ新ナル潛航艇ヲ獨逸ニ供給スルニ均シ如何トナレハ該船ノ存スル所以ノモノハ全ク西班牙ノ行動ト其ノ干與トノ御蔭ナレハナリ而シテ該潛航艇ノ交付ニ關シテハ海牙條約第六條ノ記載ヲ見ルヲ要ス其規定ニ曰ク「中立國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス交戰國ニ對シ直接又ハ間接ニ軍艦彈藥又ハ一切ノ軍用材料ヲ交付スルコトヲ得ス」ト

和蘭カ獨逸潛航艇U第三〇號及UB第六號ヲ抑留シタルハ中立ノ原則ヲ善ク了解シタルモノト云フ可シ吾人ハ西國カ和蘭ノ行動ニ倣フテUC第五十二號ヲ抑留シ且彼ノ如ク之ヲ買収スルヲ以テ其計ヲ得タルモノト信ス」云々

第二 在グイゴ獨船「ゴエベン」號載貨ニ關スル件

○在西國ウイゴ獨逸船「ゴエベン」號載貨ニ就テ(九月十四日官報) 本件ニ關シ今般西國駐劄坂田特命全權公使ヨリ左ノ如ク電報アリタルニ付當該貨物ニ對シ權利ヲ有スル者ハ其旨外務省通商局ヘ至急申出テラレヘシ(外務省)

在西班牙 *Vigo* 獨逸船 *Yedion* 載貨中橫濱發葡萄牙向ケ陶器漆器玩具及素燒物等四箱 (記號D一一一D番號^{一七}_{三四}) 同地稅關倉庫ニ在リ今般保管期限滿了ニ付放棄スヘキ旨 *Vigo* 稅關長ヨリ通知アリタリ右ハ果シテ日本人所有ノ貨物ナリヤ否ヤ不明ニ付當方ニテハ日

下里斯本及倫敦ヘ問合中ナルモ取敢ヘス西國當局ニ對シ右放棄處分ノ見合方ヲ請求シ置ケリ就テハ本邦ニ於テ該貨物ニ權利ヲ有スル者ノ有無至急取調ヘ電報アリタシ

瑞
西
國
法
令

瑞西國法令

第一 瑞西ノ經濟的處置ニ關スル大統領ノ明言

(通商公報第四六二號)

(大正六年八月一日附在瑞西帝國)
特命全權公使三浦彌五郎報告)

瑞西大統領兼經濟省長官 シェルツェス氏 及政務長官アドル氏ハ七月二十八日在ベルヌ新聞通信員ヲ集メテ目下瑞西經濟狀態ニ付言明スル所アリタルカ其ノ要件ハ聯合側、獨逸及米國トノ交渉問題ニ外ナラス

(一)瑞西ト聯合諸國トノ交渉ハ近日巴里ニテ開始ノ筈ニテ其主タル案件ハ材木ノ輸出一般輸出入及運輸ニ關スル問題ナリトス特ニ運輸ノ問題ハ最モ重大ニシテ瑞西ハ海外ヨリ輸入スル商品ヲ輸送スヘキ必要ノ船舶ヲ借り受ケサルヘカラサルモ此問題ハ從前ヨリモ今日ニ至リ一層難澁トナレリト

(二)瑞西ハ米國ニテ必要ノ物品ヲ買入レサルヘカラス米國カ右賣入ヲ禁止シ又ハ買入ニ重大ナル困難ヲ與フルカ如キコトナキヲ信スルモ現ニ聯合側ト取極メ居ル「エス、エス、エス」ノ制度ハ (Société de Surveillance économique Suisse) 米國ヨリ輸入スル原料品及食料品ニ適用セラルヘシ米國ハ瑞西ノ特殊ノ地位ヲ考慮シ居レトモ瑞西ノ地位ハ容易ニアラス米國ニ於ケル麥買入ハ目下中止シ居レリ何トナレハ必要ノ分量ヲ買取り得サルヲ以テナリ

吾人ハ新收穫後ニハ米國ニテ麥買入ヲ爲シ得ルナラント期待シ居レトモ麥買入、其輸入及運輸ノ状態不安固ナルヲ以テ瑞西產出ノ麥ヲ努メテ節約シテ利用スルヲ要ス

(三)獨逸トノ現在通商協定ハ七月三十一日ニテ期限滿了スヘシ世人ノ知ル如ク瑞西ハ鐵、石炭、若干ノ化學肥料「ベンツーン」「ベンゾル」及其他ノ必要品ヲ獨逸ニ仰キ居レリ就中石炭及鐵ノ二品ハ獨逸ノ外、瑞西ニ供給シ吳ル、國ナキヲ以テ瑞西力運輸用、工業用及來ルヘキ冬季ノ暖室用石炭ヲ獨逸ヨリ得ルコトハ絶對的必要ニ屬ス依テ獨逸ト新協約ヲ締結スル爲メ現ニベルヌニテ兩國委員協議中ナリ獨逸ハ主トシテ軍需品工業用ニ要スル石炭ノ分量大ニ増加シタル爲メ自國ニ於テモ石炭不足ヲ訴ヘツ、アル次第ニテ從テ瑞西ニモ影響シ瑞西ニ於ケル此冬ノ石炭不足ハ昨冬ヨリモ一層甚タシキニ至ルヘシ又石炭ノ價格問題モ頗ル重要ナリトス今日マテ瑞西ハサール河地方產石炭ヲ現場渡シ一噸六十法ノ割合ニテ買取りタルモ獨逸委員ハ他國ニ於ケル(獨逸聯邦モ含ム)石炭價格騰貴ニ鑑ミ其價格ヲ著ルシク引上ケ以テ獨逸ノ仕拂資金ヲ得シコトヲ希望セリ本件交渉ハ未タ經マラサレトモ獨逸ハ瑞西力獨逸ニ巨額ノ貸金ヲ爲スコトヲ承諾スルニ於テハ多量ノ石炭ヲ供給スヘシト主張シ居レリ

シユルツェス氏ノ言明大要ハ前記ノ通りナルカ瑞西ハ高價ノ價格ヲ拂ヒテ獨逸石炭ヲ輸入スルヨリハ瑞西銀行ヨリ獨逸銀行ヘ貸付ヲ爲スコト、スル方有利ナリト認メ居レリ(此際獨逸ニ貸付スルハ不安全ニシテ見込ナキ貸付ナリトノ意見モアレトモ)昨今ベルヌニテ石炭及「コークス」一噸百十法内外ナリ

從來切符制度ニテ消費ヲ制限シ居リタル米及砂糖ハ八月一日ヨリ著ルシク其價格ヲ引上ケタリ是レ運賃暴騰ノ結果ナル由ニテ例ヘハ目下ノ運賃ハ昨年ニ比スレハ米國砂糖運賃ハ二倍トナリ瓜哇砂糖及印度米ハ三倍トナレリト云フ

瑞西ハ自動車用「エツサンス」不足ヲ調節スルノ企圖アリ又石炭不足ノ爲メ當國ニアル鐵道ハ近々發車度數ヲ減シ團體割引、月極割引、特別列車仕立等ヲ廢止スル由ナリ

第二 瑞獨經濟取極交渉ニ付テ

(通商公報第四五七號)

(大正六年八月八日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告)

八月六日ノ「ノイエ、チューリッツヘル、ツァイトツング」ノ所説ハ最モ能ク瑞西獨逸經濟取極交渉事件ノ實情ヲ示シタルモノト認ム其意見ノ大要左ノ如シ

七月三十一日ヲ以テ期限滿了トナリタル瑞獨經濟取極ヲ更新スル條件トシテ獨逸委員ハ瑞西委員ニ或要求ヲ爲シタリ右ハ非常ニ微妙ナル問題ニシテ瑞西ハ之レカ爲ニ重大ナル「ゲレンマ」ニ遭遇スルニ至レリ之レニ對スル吾人ノ態度ヲ公平ニ定メント欲セハ該問題ヲ細查スルヲ要ス

獨逸ハ吾人ニ石炭ヲ供給スル問題ト瑞、獨間ノ財政上ノ協商問題トヲ結合セシメタリ獨逸

ハ斯クシテ下落セル麻克相場ヲ騰貴セシメントスルヨリハ寧ロ爲替相場ノ今後尙一層下落スルヲ防止センコトヲ目的トス之レカ爲ニ獨逸ハ瑞西ニ於ケル物資買入ニ對シ不利ヲ醸ササル仕拂方法ヲ求メントスル次第ナルカ其方法ニ二様アリ其一ハ獨逸カ瑞西ニ供給スル石炭ノ價格ヲ著ルシク増加スルコトニシテ其二ハ獨逸ニテ不足ヲ訴フル財源ヲ得ル爲ニ瑞西ニモ借款ヲ爲スコト是ナリ

瑞西ハ如何ニシテモ獨逸石炭ヲ輸入セサルヲ得ス故ニ獨逸カ此事情ヲ利用シテ一種ノ壓迫ヲ加フルハ自然ノ事ナリ從來瑞西ハ獨逸石炭一噸ニ付六十法乃至六十六法ヲ仕拂ヒタルカ若シモ瑞西カ獨逸ニ貸付ヲ爲スコトヲ拒絕スルニ於テハ獨逸ハ石炭ノ價格ヲ少ナクトモ三倍ニ増加スルナラン生活費ノ既ニ昂騰セル瑞西ニ於テ更ニ石炭ノ價格右ノ如ク騰貴セハ其困難ノ如何ニ増加スヘキヤハ一見明瞭タルヘシ然レトモ他ノ一方ニ於テ巨額ノ貸付ニ應スルハ瑞西ニ取リ極メテ重大ノ結果ヲ生スヘキコトモ亦看過スル能ハス瑞西ノ資本ニハ限リアリ特ニ瑞西ハ戰後直ニ來ルヘキ過渡期ニ際シ資本ヲ要スルコト痛切ナルヘケレハナリ獨逸ハ平和締結後直ニ瑞西ノ貸付金ヲ償還スルコトヲ承諾スヘキヤ此事殆ト不可能ナルヘク却テ今日獨逸カ經濟取極更新ノ機ニ於テ瑞西ノ資金ヲ要求スルカ如ク戰後瑞西ヨリ更ニ新規ノ資本ヲ得ルコトヲ欲スルナラン

尙一ノ注意スヘキ事ハ瑞西カ獨逸ノ希望スル貸付ニ應スルトスルモ獨逸ハ噸六十法乃至六十六法ノ從前ノ炭價ヲ必スシモ其儘ニ維持スルノ意思ヲ有セスシテ一噸九十法ニ値上ケセ

ント主張シ居ルコト是ナリサレハ石炭ノ小賣値ハ一噸百法ニ上ルヘシ假リニ從來ノ炭價ト先方ノ主張スル炭價ト折衷シテ其中間價格ニテ折合フモノトシテモ瑞西ヨリ獨逸ニ仕拂フヘキ石炭代ハ年五十萬法ヲ増加スヘシ

第三 瑞獨間經濟取極ノ内容ニ付テ

(通商公報第四六四號)

(大正六年八月二十一日附在瑞西帝國特命全權公使三浦彌五郎報告)

瑞西、獨逸間經濟取極ノ交渉(本誌第四五七號本欄參照)ハ略々結了セシ模様ニテ數日內ニハ確定スルニ至ルヘシト傳ヘラル右ノ内容ニ關シ八月十九日當地電報通信社ノ發表セルトコロ左ノ如シ

「今日マテ瑞西ハザール鑛山渡石炭一噸ニ付六十法ヲ拂ヒ來リタルカ今後ハ一噸九十法トナルヘク又瑞西ヨリ獨逸ニ貸付クヘキ金額ハ獨逸ノ石炭引渡額ニ準スヘシ即チ石炭七萬五千噸マテハ無貸付ニテ引渡ヲ受クヘク七萬五千噸以上ハ其數量ニ應シテ貸付額ヲ定ムルモノニシテ石炭引渡月額二十萬噸ニ達スルトキハ貸付額ハ二千萬法ニ上ルモノトス又瑞西ヨリ獨逸ニ交付スヘキ物品、就中畜類ハ從前ニ比シ著ルシク其量ヲ減スヘシ」

尙本取極ノ有效期間ハ千九百十八年四月末日マテニシテ兩當事者ノ一方ハ二ヶ月前ニ豫告シテ之レヲ廢棄シ得ヘシトノコトナリ

第四 瑞西國ノ第七回中立報告

(外事彙報大正六年第九號)

(大正六年五月二十九日附報告)

瑞西政府ハ五月二十四日第七回中立報告ヲ公表シタリ

(一) 掲載事項中第一ニ注意スヘキハ獨逸及聯合國側トノ經濟取極ナルカ獨逸トノ取極ハ大要左ノ如シ(前號瑞獨經濟協商參照)

一、輸出軍需品輸出委員會及鐵集收所ニ關スル千九百十六年九月二日兩國政府ノ取極ハ千九百十七年七月三十一日迄其有効期限ヲ延期ス

二、曩ニ獨逸政府ノ採リタル輸入禁止ノ制限ニ就キ獨逸政府ハ千九百十七年五月ヨリ同年七月三十一日ニ至ル期間ニ於テ左ニ記載セル瑞西國物產原價千八百萬法ニ達スル迄ノ輸入ヲ許スモノトス輸入許可願ハ瑞西政務省通商局ヨリ獨逸帝國公使館ニ提出シ同公使館ハ之ニ許可スル旨ヲ記入シ成ルヘク速ニ右通商局ニ送致スヘシ

右輸入總額ハ各種絹物三割五分各種刺繡三割各種時計二割五分雜品一割トシ雜品ノ如何ナルモノナル歟ニ就テハ緊急ノ理由ナキ限り獨逸政府ノ希望ヲ顧慮スルモノトス

聯邦政府ハ附言シテ曰ク

吾人ハ石炭及鐵ニ就キ吾人ノ必要ヲ充タス爲メ獨逸國ニ供給ノ義務ヲ要求シタルモ瑞西國ノ供給義務之ニ伴ハサル爲メ我目的ヲ達スル能ハサリキ然レト談判中獨逸政府ハ

瑞西ニ石炭及鐵ヲ供給スルハ獨逸政府ノ最モ努力スル所ナリ是ヲ以テ經濟取極ノ引續キ存續スル間ハ事情變更セサル限り供給者ヲシテ第二章所載ノ額ヲ供給セシムル様督促シ且又是カ輸送ヲ進捗セシメンカ爲メニ盡力スヘキナリト宣言シタルカ其價格ハ賣主買主間ニ直接之ヲ協定スヘキナリ

(二) 聯合側トノ取極ハ概要左ノ如シ

千九百十六年ノ公文ニ基キ聯合諸國トモ談判ヲ開始スルコト、ナリタルカ種々ノ點ニ關シ約定成立セリ

其中第一種ニ屬スルモノハ聯合諸國ノ爲メ瑞西ニテ製造セラレタル軍需品殊ニ武器火藥及爆發物ニ關シテ獨逸政府ノ發シタル規定ト獨逸ノ爲メ瑞西ニテ製造シタル軍需品ノ取扱トノ間ニ平衡ヲ保タシメンカ爲メニ生シタルモノナリ

第二種ハ輸出額ノ提出、之ニ對スル調査、許可手續、監督振殊ニ輸入シタル原料ヲ或交戰國ニ向ケ輸出スヘキ物品ノ製造ニ使用スルコトニ對スル監督及瑞西經濟監督協會ノ仲介ニヨリ輸入シタル貨物ノ買占ヲ阻止スル方法ニ關スル細則ナリ

紡績織物ノ精製ニヨル再輸出入、中央帝國ニ輸出スル機械及器具ニ包含スル銅ノ全量ヲ増加セルコト、五五五ノ仲介ニヨリ輸入シタル葉鐵ノ使用ニ對スル監督、五五五ノ仲介ニヨラスシテ聯合國ヨリ輸入シタル金屬類ノ屑物ノ使用ニ對スル監督等ノ細則ハ又別ニ存ス

獨逸經由和蘭及スカンヂナビア諸國ニ仕向ケタル貨物ニ對スル取扱ハ目下實行セラ

瑞西國法令

五七四

ル、規定ヨリモ稍々寛トナレリ尙聯合諸政府トノ間ニ飼料ノ輸入及蓄牛ノ輸出ニ關シ
妥協成立セリ

(三) 五月十日現在瑞西國ニ抑留セル交戰國民ノ總數ハ二八、三六七人ニシテ其主ナルモ
ノ左ノ如シ

	將校	下士卒	非軍人	計
獨逸人	四八	七、三五	八九	八、五七二
英人	一三三	一、七四九	四	一、八七五
佛人	六九五	二、九三三	二、〇八七	一、五、七三五
白耳義人	八六	一、四三九	四〇六	一、九三二
二月十六日以降廢兵及五十五歳以上ニシテ歸還セシメラレタルモノ				
將校		下士卒	非軍人	計
獨逸人	六	八〇	二	一〇七
英人	一	六	一	六
佛人	六	九〇	三三	一、二五九
白耳義人	一	二五	七	九六
其他不在トナリタルモノ				

	將校	下士卒	非軍人	計
獨逸人	一	四	二	五九
英人	一	二	一	三
佛人	二〇	二四	三	二八七
白耳義人	一	一	三	三
(四) 瑞西ノ動員費ハ六億九百五十萬法ニ上レリ				

第五 「グリム、ホフマン」事件

(外事彙報大正六年第九號)

(一) 「グリム、ホフマン」事件概要

(大正六年六月二十日附報告)

瑞西政務長官ホフマンヨリ在露都瑞西公使ニ宛テタル暗號電信カ六月十八日露國側ノ曝露
スルトコロトナリ恰モ日露獨同盟ニ關スルチンメルマンノ電訓カ米國ニテ曝露シタルト略
々同一ノ事態ヲ惹起スルニ至レリ露國側公表文書左ノ如シ

「臨時政府ハ現在ペーログラードニ滯在中ナル瑞西人口ベルト、グリム氏カ瑞西内閣員ホフ
マン氏ヨリ發セル次ノ通信チ口頭ヲ以テ轉受セルコトヲ確ナル出所ヨリ通知ヲ受ケタリ

瑞西國法令

五七五

「獨逸ハ露國トノ協商ヲ可能ナリト思考スル間ハ攻勢ヲ執ラサルヘシ余ハ幾度モ政治上ノ有力家ト交談シ獨逸ハ露獨雙方ニ名譽アリ且露國ト共ニ通商關係ヲ設定シ露國ノ恢復ノ爲ニ獨逸ヨリ財政上ノ援助ヲ爲シポーランド、リシニア、クールランドニ就キ友誼的協調ヲ爲シ露國ノ占領ニ係ル埃國領土ヲ返還スル代リニ露國ノ被占領地ヲ露國ニ返還スルノ結果ヲ有スル平和ヲ露國ト締結スルコトヲ欲スルヲ信スルニ至レリ余ハ確信ス若シ露國ノ與國方其ヲ欲スルナラハ獨逸及其ノ與國ハ直ニ平和商議ヲ開始スルノ意アルヘキコトヲ」此文書ヲ入手シ露國政府ハ社會黨大臣ツエレテリ及スコベレフニ委任スルニグリム氏ニ說明ヲ求ムヘキコトヲ以テセリグリム氏ハ此二大臣ニ說明書ヲ交付シ平和商議問題ニ就キ直接ニモ間接ニモ何等ノ通信ヲモ受ケサルコト上記ノ電報ハ彼方露國ニ滯在中ナルヲ利用シ獨逸政府ノ利益ニ於テ國際關係ト一般の平和トヲ設定セントスル獨逸ノ試ミナルコト且尙ヘルヲニ於テハ其旅行券ノ査證ノ間彼ハ全ク政治上ノ中介及獨逸社會黨多數派トノ接觸ヲ回避セルコト終リニ彼ハ其等政府間ノ帝國主義的平和計畫ノ通話管タル能ハサリシコトヲ證明セント欲セリツエレテリ及スコベレフ兩氏ハ此等ノ說明ヲ満足ト認メサルヲ以テ臨時政府ハグリム氏ニ露國ヲ離去スヘキコトヲ要求セリ」

抑々該瑞西暗號電報ハ露國電信局又ハ其向ニテ之ヲ解讀シ得タルモノカ又ハ在露都瑞西公使館ニテ解讀後或ハ館員又ハ其ノ他ノ者ヨリ露國側ニ洩シタルモノカ尙明ナラス六月十九日發表セラレタル瑞西ノ證明書ニハ權限ナキ者ノ爲メニ解讀セラレタリト記述スルモ果シ

テ然ルカ否カ疑ノ餘地ナシトセス又暗號電報ニテ送リタル以上ハ少クトモ瑞西政務省電信掛ハ知り居ルヘキ筈ナリ又電報ヲ發スルニ先チ他ノ閣員ハ一人モ之ヲ知ラストハ頗ル解シ難キ事ニ屬スルモ瑞西國ニテハ大統領ノ言明ノ知ク全然ホフマン專斷ノ取計ヲヒトシテ發表セラレタリ瑞西側ノ該說明書ハ左ノ如シ

「千九百十七年五月十七日下院議員グリムハ當時ベトログラードニ滯在シタルカ内閣員ホフマンニ一通ノ電報ヲ轉致セシコトヲ在露都瑞西公使館ニ請求セリ該電報ハ平和ノ欲求ハ一般ニ感知セラル、コトヲ要旨トシ平和締結ハ政治上、經濟上、軍事上ノ見地ヨリ急迫セル必要ナルコト及官邊ニ於テ其欲求ヲ認メタルコトヲ述ヘ總テノ商議ヲ累スヘキ最モ危險ナル唯一ノ事ハ東方ニ於ケル獨逸ノ攻勢ナルヘシ其攻勢ニシテ若シ生セスンハ清算ハ比較的短時日ノ間ニ之ヲ爲シ得ヘキコトヲ陳シタリ彼ハ尙其電報ニ於テ内閣員ホフマンニ請求シテ曰ク諸國政府ノ認メタル戰爭目的ヲ下院諸員グリムニ通知センコトヲ願フ如何トナレハ其ハ商議ヲ容易ニスヘキヲ以テナリト

千九百十七年六月三日次ノ祕密電報ハ前電報ノ返電トシテベトログラードニ於ケル瑞西公使館ニ送付セラレタリ

内閣員ホフマンハ次ノ通知ヲ口頭ヲ以テグリムニ致スコトヲ貴下ニ委任ス

「獨逸ハ露國トノ友誼的協商ヲ可能ナリト思ハル、間ハ何等ノ攻勢ヲモ執ラサルヘシ余ハ獨逸ノ高官ト幾度モ會談ノ結果獨逸ハ獨露雙方ニトリテ名譽アル平和ヲ締結シ將來ニ於テ商業上經濟上ノ親密ナル關係ヲ結ヒ露國ノ再興ニ對シテ財政上ノ援助ヲ爲サンコト

ヲ欲スルモノナリ又獨逸ハ露國ノ内事ニ關涉セスポーランド、リトニア及クールランドノ問題ニ就キテハ其ノ國民性ヲ考料シテ協商ヲ締結シ露國占領地ヲ埃洪國ニ返還スル代リニ露國ノ被占領地ヲ露國ニ返還センコトヲ欲スルモノナリ獨逸及其ノ興國ハ露國ノ與國ノ希望ニ基キ直ニ平和商議ヲ開始スルコトヲ余ハ承知ス獨逸側ノ戰爭目的ニ關シテハ余ハ北獨日報ノ論說ヲ送付ス同論說ハ併合問題ニ就キテハ主義ニ於テアスキスト同一ニシテ獨逸ハ強大ト成ルノ見地ヲ以テ領土ヲ擴張スルヲ欲セス又政治上經濟上ノ勢力ノ増大ヲ欲セサルコトヲ論スルヲ見ル

此電報ハ何等ノ權限ナキ側ヨリ解讀セラレストックホルムニ於ケル「ブランチング」ノ機關紙「ソチアル、デモクラシー」ニ於テ公表セラレタリ

此行爲ハ接近シ來レル平和ヲ促進スルノ利益ヲ慮リ又其結果瑞西自身ノ利益ヲ來スヘキヲ顧ミ内閣員ホフマンノ企圖シタルトコロニシテ如何ナル方面ヨリモ懲慝ヲ受ケタルニアラス

ホフマンハ六月十八日附ニテ辭表ヲ呈出シタルカホフマン辭職ノ件ハ翌十九日議會ノ議ニ上レリ瑞國閣員七人(内一人ハ大統領一人ハ副大統領ニシテ閣員中ヨリ年々選舉ス)ハ議會ノ選舉ニ係ルモノナルヲ以テ六月十九日大統領ハ議會ニ於テ政府ハホフマンノ辭職申出ヲ容ル、旨ヲ宣言シ議會力之ヲ承認シタルト同時ニホフマンハ閣員タル地位ヲ失フニ至レリ尙瑞國ニハ各省ニ次官ナク各内閣員ノ代理ハ他ノ内閣員ニテ之ヲ爲スノ規定アリホフマンノ代理ハ現大統領シユルテス氏力之ヲ爲スコトニ定マレルヲ以テ同氏ニ於テ之ヲ兼攝スル

モノナリトス尤モ新聞紙中ホフマンノ後任トシテ國際赤十字委員長ギユスタープ、アドル氏 (Gustave Ador) ヲ舉クヘシト說クモノアルモ是亦議會ノ選舉ニ依ルモノナレハ果シテ同氏方選舉セラルヘキヤ又ハ他ノ候補者力舉ケラルヘキヤハ尙判明セス豈ニハ「リツター」事件アリ今又「ホフマン」事件出來シタルモ只今ノ處ニテハ責任者辭職ノ爲メ事件ハ一段落ヲ告ケタルノ觀アリ尤モ佛國最寄瑞西ニテハ示威決議ヲナシ又ハホフマンヲ責罰セヨト唱フルモノモ少ナカラス獨逸最寄瑞西ニテモ頭腦明晰ニシテ周密ナルホフマンニハ不似合ナル失策ナリト評シ居レリ但シホフマンハ在當地獨逸公使トハ常ニ頻繁ニ往復シ居リシハ事實ニシテ本件ニ關シ獨逸側ト意思相通シ居リタルハ疑ヲ容レサル所ナリホフマンノ辭表ハ左ノ如シ

「余ハ在露瑞西公使館ノ仲介ニ依リ在ベトロクラードグリム氏ニ密電ヲ送り露國及其他ノ協商諸國ニ對スル中歐帝國ノ平和條件ニ關スル意見ヲ述ヘタルカ同電報力不正ニ公表セラレタル事件ハ我國ノ内外政務ニ累ヲ及ホシ得ヘキ事態ヲ惹起セリ

余ハ余自身ニ責任ヲ負擔シ余ノ一存ヨリ其舉ニ出テタルコト及余力其ヲ思立テルハ單ニ平和ヲ顧慮シ且其ノ結果我國ニ利益ヲ來スヘキヲ慮リタルニ由ルコトハ何人モ疑ハサルコトロナルヘシ

然レトモ余ハ非常ニ緊張セル又政治上ノ大動搖ノ時代ニ於テ余ノ常規ヲ逸シタル行動ハ内閣ノ不信不一致葛藤ノ原因ト成リ余ノ貴ムヘキ祖國ニ損害ヲ蒙ラシムルヲ忍フ能ハス余ハ内閣員ノ辭職ヲ承認セラレンコトヲ願フ

上述ノ如ク右辭表ハ六月十九日ノ議會ニ上議セラレタル方當日瑞西聯邦大統領シユルテスノ朗讀セル宣言ハ左ノ如シ

「瑞西内閣ハ閣員一致シテホフマン氏ノ宣言ヲ確認ス議會ハ氏ノ行爲ニ就キ毫モ關知スルトコロナカリキ議會カ若シモ氏ヨリ商議ヲ受クルニ於テハ氏ノ所思ヲ拋棄スルコトヲ懇談シタリシナルヘシ

吾人ハ遺憾乍ラホフマン氏ト分離セントス氏ハ氏ノ知識ト能力ト献身トヲ以テ此困難ナル時代ニ於テ計畫スヘカラサル功勞ヲ國家ニ致シタリ氏ノ精神ノ純潔ナルハ疑フノ餘地ナシ氏ハ國家ノ利益ヲ思念シテ其舉ニ出テタルノミ

吾人ハ氏ノ國家ニ盡シタル忘却シ難キ大ナル勳功ヲ國家ノ名ニ於テ頌揚スルモノナリ
議會ハホフマンノ辭表ト内閣ノ宣言トヲ承認スル旨ヲ決議セリ大統領ハ此際本件ニ就キ何等ノ討論ヲ爲サ、ルヲ可トスヘキヲ提言シタルニ一二ノ反對者アリタルモ結局大多數ノ贊成ヲ得タリ

(二) 「グリム、ホフマン」事件ト瑞西ノ輿論及態度

(大正六年六月二十五日附報告)

瑞西ニ於テハ「グリム、ホフマン」事件ヲ以テ國家ノ一大危機ト看做シ居レリ六月十八日同事件曝露以來瑞國新聞紙ハ獨逸最寄瑞西ノ分モ佛國最寄ノ分モ等シク同事件ニ

關スル記事論說ニテ充滿シ又各州ニ於テ有志等或ハ會合ヲ催シ或ハ運動ヲ爲シ議會モ平常ナラハ既ニ閉會スヘキ筈ナルモ事件ノ爲メニ會期ヲ延長シ内外ノ關係上尙幾多ノ善後處分ヲ要スルモノト看做シツ、アリ

外部ノ關係ニ於テハ若シモ倫敦「タイムズ」ノ主張シタル如ク聯合諸國ヨリ強硬ニ抗議シ來ルニ於テハ少クトモ不名譽不面目ヲ免レサルヲ以テ他ヨリ苦情ノ來ラサル間ニ自發的ニ機先ヲ制シホフマンノ辭職ヲ立ロニ決行シ(尤モホフマンヲ除キタル殘餘ノ内閣員六人ノ内大統領シユルテス、デコツペ及モツタノ三人ハ速カニホフマンヲ辭職セシムル意見ニシテ他ノ三人ハ暫ク待ツモ不可ナカルヘシト唱ヘタル由)本件ハホフマン一個人ノ細工ニシテ他ノ内閣員ハ少シモ之ヲ知ラサリ旨ヲ宣明シ又口頭説明ヲ求ムル爲メ在露都瑞西公使オチエーヲ召還シ今回又和蘭在勤リツター公使ニ休暇ノ名義ニテ歸朝ヲ命シタリ是曩ニ米國ニテ起リタル所謂「リツター」事件ハ矢張りホフマン一個ノ細工ト認メラレ居ルモ其實情尙判明セサル點アルカ爲メナリト云フ佛國最寄瑞西新聞中ニハ内閣ハ連帶責任ナリ此際内閣員一同舉ツテ辭職スヘシト主張スルモノアレトモ此主張ハ極メテ少數ナリ尤モ事件ニ關スル政府ノ處分方餘リ聯合側ニ偏スル方如キコトアランニハ議會ニモ多數ヲ占メ人口ヨリ云フモ約七割ヲ占ムル獨逸最寄瑞西側ハ之ニ不同意ヲ表シテ結局内閣ト迄ハ行カサルヘキモ瑞西國民中ニ不一致ヲ招致スルノ虞アルヲ以テ本件ハ内外ノ關係上瑞西ヨリ見テ一大重要案件タルハ固ヨリナリ

當國議會ノ新聞中ニハ種々ノ意見散見スルモ六月二十五日ノ「ル、デモクラー」紙ノ社説

ハ最モ能ク目下ノ實情ヲ示シタル意見ト思ハル、ヲ以テ左ニ之ヲ譯出スヘシ同紙ハ「危機ノ必然ナル結果、附外政改革」ト題シテ論シテ曰ク「グリム、ホフマン」事件ノ結果ハ果シテ如何ニナルヘキカ吾人ノ信スル所ニ依レハ佛國最寄瑞西市民ハ過度ノ要求ヲ提起スルコトヲ差控フル方賢ナルヘシ是必スシモ論理上然リト云フニアラサルモ聯邦議會ニ多數ヲ占ムル人々ノ感情ヨリ生シ來ルヘキ結果ヲ考慮スルヲ要スレハナリ然レトモ瑞西ノ將來ニ留意スル人々カ到底拋棄スル能ハストナス所ノ最小限度ノ一定要求ナルモノ存在ス

第一ニ吾人ハ國際上ノ義務ヲ果サ、ルヘカラス

ホフマン 氏ハ白痴ニアラサル限り故意ニ瑞西ノ中立義務ヲ破リタルモノナリ「ツーリッヘル、ポスト」紙上ニエツガー教授ノ述ヘタル所ハ尤モ至極ナリ同教授曰ク不埒ナル電報中ホフマンハ獨逸カ露國ニ對シテ攻勢ヲ執ラサルヘキコト並ニ獨逸ハ露國ト名譽アル平和ヲ締結スル意向アルコトヲ特ニ陳述シ又對露平和條件ヲ頗ル明確ニ列舉シテ他ノ條件ハ之ヲ影ニ隠シ且右口上書ノ名宛人ハ交戰諸國ノ全部又ハ一國ニアラスシテ實ニグリムナリグリムハ「チンメルウツルザアン」派ノ社會主義者ニシテ露都滯在中即時ノ平和又ハ單獨平和ヲ得ント努力シツ、アル所ノ露國社會主義者ノ一群ト密接ノ關係ヲ保チ居リタル者ナリ云々

中央諸帝國ノ利益ノ爲メニ中立侵害ヲナシタルホフマンハ自己一人ヲ拘束シタルノミ然レトモ「バーズレル、ナハリヒテン」紙通信員ノ指摘シタル如ク民主主義ノ瑞西ニ於テハ各内閣員ハ個々ニ責任ヲ有セス責任ハ内閣全體ニ歸スルナリ且全權制度（戰爭開始後内閣ハ

全權ヲ有ス）ノ下ニ於テハ政府ノ責任ハ即チ瑞西全國民ノ責任ト同一體ヲ成スモノトス此觀念ハ如何ニ苦痛多キモノナルニセヨ吾人ハ瑞西國自身カ聯合諸國ノ不利益トナルヘキ方法ニテ申立ヲ破リタル事實ヲ承認スルノ誠實ト勇氣トヲ示サ、ルヘカラス但シ茲ニ酌量スヘキ一ノ事情アルハ確實ナリホフマン氏カ共同僚一同ニ告ケスシテ自己ノ一存ニテ行動シタルコト即チ是ナリ此事情アルカ爲メニ吾人ハ聯合諸國ニ對シテ補償又ハ謝罪ヲ提出スルニ及ハスト信スルモノナリ謝罪又ハ補償ヲ提供スルニ及ハサルモノトスルモ吾人ハ本件ノ如キ事件ヲ將來再起セシメサルヘキ保障ヲ聯合國ニ提供セサルヘカラス其保障ハ何々ナルヘキヤ他ナシ一方ニ於テハ現行法律ヲ嚴重ニ適用シ他方ニ於テハ其ノ改正ヲ行フコト是ナリ

現行法律適用ノ點ヨリ云ヘハ現在ノ機關ヲ有效ニ運用シテ個人的政策ヲ除斥スルヲ要ス不幸ニシテ今日迄ハホフマン氏ノ過失ニ依リ右ノ運用ハ只紙上ニ存在シタルニ過キス吾人カ茲ニ機關ト稱スルハ政府内ニ外交委員會ヲ設クルコトヲ指ス吾人カ六月二十三日日本紙上ニシタル該意見ハアドル氏ノ機關紙タル「ジュルナル、ド、ジュネーブ」新聞ノ熱心ナ表明ル贊成ヲ博シ又「ノイエ、ツルヘル、ツァイトウング」紙カ右委員會ヲ設クルニ於テハ政務長官（外相）候補者ノ甲乙ニ對スル彼是ノ批評又ハ非難ノ如キモ一括解決スルヲ得ヘシト爲セルハ理由アルコトナリ一度外交委員會ヲ設置シタル後ハ政務長官（外相）ハ或意味ニ於テ同委員會代表者タルニ過キササルコト、ナルヘシ大統領及副大統領ハ同委員會ニ包含セラレヘキモノトス同委員會ヲ有效ノモノタラシメンニハ一週間ニ約四回即チ普通内閣會議日ノ

外ハ毎日開會スルヲ要ス

此制度ヲ實施スレハ誠實ナル嚴正中立ノ適用ニ關スル一切ノ疑念ヲ一掃スルヲ得ヘク又アドル氏ノ政務長官候補者ニ對スル苦情ヲモ緩和スルヲ得ヘシト思考ス
法律勵行ノ點ヨリ云ヘハ辭職者ホフマンヲ求刑セサルヘカラサルコト勿論ニシテ此點ニ關シテハ何等ノ議論ヲモ容ル、ノ餘地ナシ(報告者曰ク此點ニ就テハ當國新聞中ニモ異論アリ半官報「アント」ノ如キハ反對ス)ホフマン氏ハ聯邦大統領タル資格ヲ以テ一九一四年八月五日附布告ニ署名シタリ布告ニ曰ク吾人ハ吾人ノ傳說ヲ守リ國際條約ニ遵ヒ安全ナル中立ヲ保持スヘシ云々トホフマンハ又同年八月四日及六日ノ命令ニ署名シタリ其ノ第一節ニ曰ク一切ノ交戰國ニ關シ最モ嚴重ナル公平ヲ守ラサルヘカラス故ニ交戰國ノ一方ニ最負スルカ如キ一切ノ行爲ハ之ヲ差控フルヲ要スト第二項ニ曰ク如何ナル敵對行爲ト雖モ之ヲ企ツヘカラス又如何ナル方法ニテモ敵對行爲ヲ援助スヘカラス……犯ス者ハ法律上訴道セラレヘシト

又他ノ一面ニ於テハ聯邦刑法第五十三條I號ヲ適用スルヲ要ス同條ニ曰ク聯邦ノ如何ナル官吏及議員ト雖モ次ノ場合ノ一ニ該當スルモノハ罰金ニ處セラルヘシ……I號ニ曰ク官吏カ其職掌ニ屬スル義務ヲ故意ニ破リタルトキ右規定ヲ適用スヘキ官吏中ニハ內閣及內閣員ヲ包含ス云々ト

吾人ハ世人カ吾人ヲ十分ニ諒解センコトヲ望ム吾人ハ決シテ屍ニ鞭タシコトヲ欲スルモノニアラス吾人ハホフマンヲ平和裡ニ殘シ置カンコトヲ望メトモ法律ハ法律ナリ聯邦憲法第

四條ニ曰ク一切ノ瑞西人ハ法律ノ前ニハ平等ナリ瑞西ニハ臣民モナク場所、出生、身分、又ハ親族ニ依ル特權者モ無シト故ニ本件ノ場合ニ法律ヲ適用セザランニハ吾人ハ憲法ヲ侵害スルコト、ナルナリト

「ル、デモクラート」紙ハ更ニ進ンテ國會議員ヨリ成ル審査委員會ヲ設ケテ政府又ハ軍隊ノ中立違反又ハ會計違反等ノ事件ヲ審査セシムヘシト主張シ(報告者曰ク瑞西ノ總司令長ウ井レ將軍ハホフマンノ推舉後援ニテ總司令長ニ選ハレタル者ニシテ獨逸最負ノ偏頗者ナルカ故ニ之モ始末セヨト論シ居ル新聞アリ)政務省ニ總務長官ヲ設置スヘシト唱ヘ(報告者曰ク現在ハ長官即チ大臣ノ下ニ外務局長、商務局長アルノミ)且國會議員ヨリ成ル外交委員會ヲ設ケテ政府ノ外交委員會ト相並ヒテ複式制度トナシ政府ノ外交委員會ハ決定ヲ爲シ議員ノ外交委員會ハ希望ヲ表明スルニ止ムルモノトナスヘシト主張ス而シテ曰ク斯クノ如クスレハ現ニ吾人カ遺憾千萬ナリトスル所ノ「ホフマン」事件ノ如キ事件ノ再發ヲ防クヘキ保障ヲ内外ニ供與スルヲ得ヘク吾人ハ恐ラクハ聯合諸國ニ對シテ謝罪ヲ呈スルカ如キ不愉快ナル責務ヲ免ル、ヲ得ヘシト

傳フル所ニ依レハ日下ノ危機ハ次ノ方法ニテ解決セラレヘシト云フ
政府ノ見ル所ニテハ政務省ニ於ケル一切ノ個人的政策ヲ根絶スル爲メニハ從前ノ如ク聯邦大統領ハ年々交替毎ニ政務長官ノ職務ヲ執ルヲ要ス同時ニ政府内ニ內閣員三人ヨリ成ル所ノ外交委員會ヲ組織シアドル氏ハ其ノ一員トナルヘシ此新組織ニ從ヘハ本年分ノ政務長官ノ職ハ大統領シユルテス氏ニ歸スヘキ譯ナレトモ他ノ內閣諸員トモ協議ノ上平和ト統一ト

ノ最高利益ヲ考慮シ且アドル氏自身及其ノ諸友人ノ希望ヲ充タス爲メニ本年一杯ハ政務省
主宰チアドル氏ニ讓ルコトヲ大統領ハ承諾ス補缺選舉ハ明日(六月二十六日)議會ニテ之ヲ
行フ筈ニテアドル氏ノ當選疑ナカルヘクアドル氏當選ノ上ハ來ル七月一日ヨリ政務長官ニ
就職スヘシト云フ

(三) 六月二十七日及二十八日ノ瑞西議會ニ於

ケル「グリム、ホフマン」事件ノ討議

(大正六年六月二十九日附報告)

六月二十七日ノ下院ニ於テ「グリム、ホフマン」事件ハ再ヒ討議ニ上リタルカ第一着ニ本
件討議ハ總テ速記スヘシトノ動議ハ二七票對一〇二票ノ多數ニテ破レ次テシヤッフハウス
選出議員外交委員長シパーンハ本件ニ關スル委員會ノ調査報告ヲ爲シテ曰ク政府ハ「ホフ
マン」事件發覺スルヤ否ヤ敏速ニ行動シタリ尙政府ハ本件ヲ十分詳細ニ取調ヘテ議會ニ報
告スヘキ旨ヲ約束シタリ外交委員會ハ本件ハ國際關係上既ニ結了シタルモノト看做スホフ
マンハ既ニ居ラサルニ徒ニ彼ヲ攻撃スルハ男ヲシカラスホフマンハ甚ダシキ不始末ヲ演シ
タルモ其ノ意思ハ純良ニシテ獨露單獨講和ヲ欲シタルニアラス一般ノ平和回復ヲ希望シタ
ルナリホフマンハ斷シテ獨逸ノ手先ニハアラス又「リツター」事件ハホフマンノ干與セサル
所ナリ云々ト議員スクレタンハ曰クホフマンカ外國ノ手先ニアラサルコトハ予モ之ヲ認ム

ルモ各種書類ヲ一覽シタル處ニテハホフマンハ獨露單獨講和ノ締結ニ盡力シタル者ナリト
ノ感覺ヲ與フ特ニホフマンカ同僚ノ何人ニモ其事ヲ告ケサリシハ驚クヘシ「リツター」事件
ハ「グリム、ホフマン」事件トハ何等關係ナキモ然ラハ政務省ハ何故ニ成規ニ從ヒ隨時發表
スル報告中ニ同事件ヲ明記セサリシヤ右兩事件共更ニ特別ノ審査ヲ行フヲ要スト
其他二名ノ議員ノ演說アリタル後散會シタリ尙當日ノ議會ニ於テ在露都瑞西公使オジエー
氏ヨリホフマンヘ宛テタル電報發表セラレタリ左ノ如シ

「現在ベトログラードニ滯在中ナル下院議員グリム氏ハ内閣員ホフマン氏宛一通ノ電報ヲ
送ラレンコトヲ請求セリ其ノ内容ハ次ノ如シ

平和ノ要求ハ到ル所ニ感セララル平和締結ハ政治上、經濟上及軍事上ノ見地ヨリ切迫セル
必要ナリ此思想ハ有力者間ニ存在ス佛蘭西ハ其二障礙ヲ爲ス又英國ハ其二反對ナリ商議
ハ近キニアリ前途好望ナリ近日中新ニシテ最も強大ナル低氣壓ニ注意スルヲ要ス
總テ商議ニ最も危險ナル或ハ起リ得ヘキ唯一ノ妨害ハ唯東方ニ於ケル獨逸ノ攻勢ヨリ發
生スルコトヲ得ヘシ此妨害ナクハ決算ハ比較的短時日ニ可能ナルヘシ
勞働會ノ國際會議召集ハ新政府平和的政綱ノ一部ヲ成ス諸國政府カ旅券ノ困難ヲ惹起セ
サル限リハ同會議ノ會合ハ確實ナリト思ハル諸國ハ其ノ參加ヲ約束セリ
商議ヲ容易ナラシムル爲メニ諸國政府ノ戰爭目的ニ就キ貴下ノ承知セララル、モノヲ成ル
ヘク教示アラランコトヲ望ム余ハ約十日間ベトログラードニ滯在ス

翌二十八日更ニ本件ノ討議ヲ繼續シ特別審査委員設置ニ關シ幾多ノ議員討議ヲ試ミタル後

大統領 シュルテス氏ハ發言シテ曰クホフマンカ在伊國瑞西公使ヲ介シテ獨逸ノ平和提議ヲソソニ一ノニ致シタリトノ說ハ虛構ナリ食料問題ニ關スル多大ノ困難ヲ改善スルニアラサレハ瑞西ハ恐ルヘキ危機ニ陥ルヘキヲ以テ我委員ハ本件協議ノ爲メ既ニ巴里及倫敦ニ出發シタリホフマン及グリム兩氏カ獨逸ノ手先ナリト云フハ全然虛偽ナリ内閣ハ全會一致ヲ以テホフマンノ辭職ヲ承諾シタルハ苟モ中立國人ハ中立違反ノ外觀サヘモ之ヲ避ケサルヘカラサルニ露都ニ發電シタルハホフマンノ一大失態タルヲ以テナリ政府ハ本件ノ審査ヲ續行スヘク一面ニハ國家ノ高キ利益ヲ考量スルト同時ニ何事モ隱匿セサルヘシ政務省ハ專ラ本件審査ニ當ルヘシ余ハ佛國最寄瑞西カ特ニ靜肅ニ本件審査ノ結果ヲ待タレンコトヲ希望ス吾人カ内ニ於テハ中立方針ヲ實行シ外ニ向ヒテハ調和政策ヲ實行センカ爲メニハ我祖國ノ將來及安全ニ對シ全市民ノ愛國共助ヲ要ス云々

採決ノ結果「ホフマン」事件特別審査委員設置ノ議ハ一二票對九九票ノ多數ニテ消滅ニ歸シタリ

(四) 「グリム、ホフマン」事件ノ結末

(大正六年七月一日附報告)

本件ハホフマンノ辭職、政府ハ本件ニ無關係ナリトノ議會ニ於ケル大統領ノ宣言、佛國最寄瑞西中ニテモ最モ佛國最負ノ評アルジュネーブ側ヨリアドル氏ヲ其ノ後任ニ選舉シタルコト政府ハ大統領、副大統領及政務長官ヲ以テ外交委員會ヲ組織シタルコト來年一月一日以降ト雖アドル氏ハ矢張り同委員タルヘキコト「ホフマン」事件ハ政府ニ於テ尙調査ヲ繼續シ其ノ結果ヲ本年九月ノ議會ニ報告スヘキコト等ヲ定メ本件ハ内部ニ於テハ茲ニ一段落ヲ告ケ議會ハ六月二十九日ヲ以テ閉會シタリ

又本件ニ關シ聯合側ノ何レノ國モ抗議ヲ申込ム模様ナク本件ハ外部ノ關係ニ於テモ亦結了セルモノト看做サレ居レリ

尙又ジュネーブニ於ケル示威運動者カ獨逸領事館ニ加ヘタル暴行ニ關シテハ外務局長ヂュナン氏カ瑞西政府ノ名ヲ以テ陳謝ノ意ヲ表シタルニ對シ獨逸公使ロンベルグハ之ヲ領シタル趣ナリ被選舉後一旦ジュネーブニ歸リタル新内閣員アドル氏ハ同地ニテ實ニ盛大ナル歡迎ヲ受ケタルカ其演說中同氏ハ瑞西危機ノ今日ニ當リ老人ニ全幅ノ同情ヲ與ヘ吳レヨ個々ノ意見ヲ發表スルハ全然自由ナレトモ不穩當ナル示威又ハ運動ハ願ハクハ之ヲ謹マレヨ瑞西聯邦全體ノ調和及最高利益ニ着眼スルヲ忘ル、勿レト戒メタリ

(五) 「グリム、ホフマン」事件ニ對スル「フランクフルター、ツァイトツング」紙ノ評論大要

(大正六年六月二十二日附報告)

最近着「フランクフルター、ツァイトツング」紙ハ「グリム、ホフマン」事件ニ關スル瑞西電報通信ヲ掲ケテ之ニ註解ヲ下シテ曰ク

瑞西ノ公式通信ニ依レハ内閣員ホフマンハ他ヨリ何等ノ勢力ヲモ加ヘラレ、コトナクシテ自カラ行動シタルコト第一ニ明白ナリトス即チ瑞西政府ハホフマン氏カグリムニ發電シタルハ獨逸ノ爲メニ働キタルモノニアラサルコトヲ公式ニ確認シタルナリ且又ホフマン氏電報中ニ記載セル獨逸ノ平和條件ナルモノモ是獨逸ノ公式平和條件ニアラスシテホフマン氏カ位置高キ人々ト時々會談セル結果同氏カ獨逸ノ平和條件ナリト單ニ自ラ思考シタル所ノモノニ外ナラサルナリ

「フランクフルター、ツァイトツング」紙ハ更ニ他ノ部分ニテ事件ヲ論評シタルカ右ハ獨逸其筋ノ意向ヲ反映セルモノト看做サレ居レリ其大要ニ曰ク獨逸ノ敵ハホフマンカ獨逸ノ爲メニ運動シタルモノト必然宣言スルナラン然レトモ吾人ハ之ヲ信スルコト能ハス何トナレハホフマンカ述ヘタル專柄ハ露國ニ於テモ眞理ニ眼ヲ閉チサル人々ノ間ニハ完全ニ知レ渡リ居ルヲ以テナリ

グリム氏ハ露都滯在中近々ノ内ニ平和回復可能ナリトノ感想ヲ抱キタルヲ以テホフマン氏ノ通信ヲ促シタルナリ而シテ平和回復期ノ遠カラサルコト平和回復ハ當ニ世界交戰諸國ノ幸福ナルノミナラス又中立諸國ノ幸福ニシテ就中現戰爭ノ爲メニ甚ダシク苦シミツ、アル瑞西ニ取リテハ最モ幸福ナリト思考スルホフマン氏ノ他位ニ立チテ本件ヲ考量スルトキハ其事誠ニ理解シ易カルヘシ即チ本件ハ全然當然ノ事態ニ外ナラサルナリ然レトモ聯合側ハ獨逸間ノ講和ノ徑路ヲ平坦ナラシメントスル本件ヲ以テ人ノ耳目ヲ聳動スル大事件ノ如ク喧傳スヘシ又聯合側ハ之ヲ罪惡視スルナルヘシ内閣員ホフマン發在露都瑞西公使宛暗號公用電報ノ内意カ横合ヨリ發表セラレタル事實ニ徴スルニ露國並ニストリクホルムノ如キ中立國首府ニ於テモ尙獨逸ノ平和的接近ニ反對スル分子ノ存在スルコトヲ知り得ヘシ右ホフマン電報ヲ發表シタルハ「フランクフルター」ノ機關紙「ゾチアル、デアモグラ―テン」ナリ世界ノ何人モ斯クノ如キ發表カ平和ニ貢獻スル所アルヘシトハ信セサルヘシ云々

(六) 瑞西政務長官(外相)新任及外交委員會

(大正六年六月二十七日附報告)

(一) ギニスタープ、アドル 氏カ瑞西議會ニ於テ内閣員ニ選舉セラレ當選確定ノ旨議場ニテ發表セラル、ヤ否ヤ同氏ハ起立シテ挨拶ヲ述ヘ更ニ一定ノ形式ニ從ヒテ宣誓ヲ爲シタリ同氏ハ七月二日就任スル趣ナリ

瑞西國法令

同氏ハ本年十二月二十三日ヲ以テ七十二歳ニ達スル由ニテジュネーブ州ノ富豪ナリ現ニ同州選出下院議員ニシテ又萬國赤十字社長トシテ人道ノ爲メニ盡力シツ、アルコトハ人ノ知ル所ナリ

(二) 瑞西政府ハ六月二十六日附ヲ以テ外交委員會組織ヲ發表シ大統領副大統領及政務長官ノ三人ヲ其ノ委員トシタリ本年一杯ハシユルテス氏ハ政務省主宰チアドル氏ニ譲リタルモ明年以後ハ大統領カ年々交替ニ政務長官ノ任務ヲ行フコトニ既ニ決定シタルカ明年ノ大統領ハ恒例ニ從ヒ現副大統領カロンダー氏選舉セラレヘキコト疑ヲ容レサルヲ以テアドル氏ハ他ノ省ニ廻ルコト、ナルヘキモ前記委員組織ニ依リアドル氏ハ他省ニ行キタル後モ引續キ外交委員タルヘシト云フ

内閣員及外交委員會人名表ハ左ノ如シ

CONSEIL FÉDÉRAL

Schulthess (Edmund), Président de la Confédération pour 1917, Chef du Département de l'économie publique.
 Calonder (Felix Ludwig), Vice-Président du Conseil fédéral, Chef du Département de l'intérieur.
 Ador (Gustave), Chef du Département politique.
 Müller (Eduard), Chef du Département de justice et police.
 Decoppet (Camille), Chef du Département militaire.

Motta (Giuseppe), Chef du Département des finances et des douanes.
 Forrer (Ludwig), Chef du Département des postes et des chemins de fer.

Commission des affaires étrangères constituée le 26 juin 1917 : —
 Schulthess, Président de la Confédération.
 Calonder, Vice-Président du Conseil fédéral.
 Ador, Conseiller fédéral, Chef du Département politique.

暹羅國法令

暹羅國法令

第一 暹羅ノ獨塊ニ對スル宣戰布告當時ノ 狀況並ニ其後ノ模様

(外事彙報大正六年第九號)

(大正六年七月三十日附報告)

七月二十二日ヨリ暹羅ト獨塊トノ平和關係終結シテ交戰狀態ニ入レリトノ詔勅ハ當日(日曜日)早朝ヲ以テ發布セラレ同日午前九時頃暹羅國外務次官ハ開戰ノ通牒ヲ携ヘ獨塊代理公使(Dr. E. Remy)ヲ訪問シテ之ヲ手交シ尋イテ獨塊代理公使(E. K. G. I.)ニモ之ヲ爲セリ又盤谷市内各所ノ電柱等ニハ時ヲ遷サス右宣戰ノ布告文ヲ貼付シテ一般公衆ニ之ヲ示シ各警察署ハ殆ント總出ニテ援助ノ軍隊ト共ニ市中ノ警戒ニ任セリ是ヨリ先キ暹羅國政府ニ於テ愈々獨塊ニ宣戰スルノ準備ヲ了スルヤ警戒ノ爲メ特ニ所轄警察署ニ命シテ平服巡查ヲ各國公使館ニ配置シ海軍ニ於テハ砲艦、水雷艇並汽艇等ニテメナム河ノ警戒ニ任シ殊ニ盤谷港ニ遁竄中ノ獨逸汽船ニ對シテハ嚴重ナル監視ヲ加ヘ陸軍ニ於テハ豫備兵員ノ召集ヲ行ヒテ南北鐵道沿線ノ要所ノ鐵橋及盤谷上水道、水源地、貯水所等ノ警戒ニ任セリ宣戰布告ノ當日早朝警視廳ハ在住獨塊人ノ戶別搜索ヲナシ敵國人男子約百九十名ハ悉ク自働車馬車等ニテクロン、ラアドノ衛戍病院ニ收容シ婦女子及小兒約四十人ハ本人ノ希望ナキ限り收

容所ニ連レ行カス女子ニハ一日一人ニ付暹貨四銖小兒ニハ二銖宛ノ生活費ヲ給シタルカ其後數日ニシテ彼等ノ取締ヨリモ寧口便益ヲ計ルノ意味ヲ以テ婦人小兒一同ヲ獨逸人俱樂部ニ收容スルコト、シ而シテ敵國人ノ所有財産ハ總テ暹羅國政府ニ於テ管理スルコト、ナレリ又前記獨逸汽船九隻曳船舢等十四隻ハ直ニ海軍ノ手ニ於テ無事差押ヲ了シ暹羅國國旗ヲ掲揚セリ差押汽船曳船及舢ノ名稱噸數ハ左ノ如シ

船名	登簿噸數	總噸數
Steamships		
Trautefels	2932	4699
Kohsichang	1292	2043
Pitsanulok	1267	2019
Petchaburi	1373	1904
Patani	1086	1819
Chiengmai	1080	1815
Landrat Schiff	1012	1640
Samsen	998	1632
Deli	726	1394
Stamm-Fighters		
Tacheen	248	

Menam	271
Petrien	269
Chantaboon	260
Bangpakong	269
Steam-Pugs	
Cylop	47
Undine	12
Steel-Barges	Piculs
Lesum	5000
Vegesack	5000
Bremerhaven	8400
Lehe	8400
Bremen	8400
Burg	5000
Teestemunde	8400

聞ク所ニ據レハ右ノ内大型汽船ハ概ネ其機關部ニ損傷ヲ加ヘアリ中ニハ其ノ要部ニ著シキ損害ヲ蒙リ居ルモノアリト云フ

今回收容セラレタル敵國人中從來殆ント獨逸人ノ勢力範圍ニアリタル暹羅國北部鐵道ニハ

暹羅國法令

五九八

技師トシテ二十餘名ノ獨人アリ彼等ノ就業停止及更代ニ關シテハ多少困難ノ之ニ伴フモノアルヘシト想像セラレタルモ幸ヒ陸軍省ヨリ工兵科將校十餘名並ニ遞信省傭英人二名畿甸省傭伊國人一名ヲ同鐵道臨時兼勤トシテ其缺ヲ補ヘリ又獨人 A. Mahr ハ在磐谷瑞典總領事ナリシヲ以テ暹羅國政府ヨリ瑞典國政府ニ對シ該領事認可狀撤回ノ意思ヲ通知スル爲メ一兩日ヲ費シ其後ニ於テ同人ヲ收容セリ尙暹羅國歸化獨人二名ハ何レモ其歸化ヲ取消サレ是亦敵國人トシテ收容セラレ加特力教宣教師(アルサス州生)二名ハ特ニ收容所ヨリ釋放セラレ暹國人一名(元暹羅國政府傭建築技師ニシテ恩給ニテ退役中)ハ老年ノ故ヲ以テ共ニ收容所ヨリ歸還ヲ許サレ自宅ニ於テ暹羅國官憲ノ監視ヲ受ケ居レリ右ノ如ク敵國船舶ノ差押敵國人ノ收容及其財産ノ保管ノ手續ヲナスト同時ニ捕獲審檢所ノ設置對敵通商禁止法ノ制定アリ又通信ノ檢閲ヲ開始セリ從來獨人ノ金融機關ト目サレタル The Siam Commercial Bank ハ其支配人(獨人)ノ收容ト共ニ磐谷香港上海銀行員(英人)一名ヲ傭聘シテ其後任トナシ獨人ノ機關新聞(週刊) Dinkhara ハ其編輯人ノ收容ト共ニ自然廢刊トナレリ尙暹羅國政府ハ獨人ニ授與シタル暹羅國貴族籍及同國勳章ヲ褫奪シタリ在盤谷英佛公使館ハ宣戰布告ノ當日何レモ橋頭高ク暹羅國國旗ト自國國旗ヲ併揚シ又在留外國人中(聯合國側)國旗ヲ掲ケテ祝意ヲ表スルモノアルヲ見受ケタリ宣戰布告ノ前後ニ於テハ磐谷市中ハ勿論國內各地ニ於テ種々ナル流言蜚語行ハレ爲メニ一時民心ノ昂奮セルヲ見タルモ漸次平靜ニ復歸シタリ

支那國法令

技師トシテ二十餘名ノ獨人アリ彼等ノ就業停止及更代ニ關シテハ多少困難ノ之ニ伴フモノ
 アルヘシト想像セラレタルモ幸ヒ陸軍省ヨリ工兵科將校十餘名並ニ遞信省傭英人二名畿甸
 省傭伊國人一名ヲ同鐵道臨時兼勤トシテ其缺ヲ補ヘリ又獨人 *Henning* ハ在磐谷瑞典總領
 事ナリシヲ以テ暹羅國政府ヨリ瑞典國政府ニ對シ該領事認可狀撤回ノ意思ヲ通知スル爲メ
 一兩日ヲ費シ其後ニ於テ同人ヲ收容セリ尙暹羅國歸化獨人二名ハ何レモ其歸化ヲ取消サレ
 是亦敵國人トシテ收容セラレ加特力敦宣教師(アルサス州生)二名ハ特ニ收容所ヨリ釋放セ
 ラレ奧國人一名(元暹羅國政府傭建築技師)シテ恩給ニテ退役中)ハ老年ノ故ヲ以テ共ニ收
 容所ヨリ歸還ヲ許サレ自宅ニ於テ暹羅國官憲ノ監視ヲ受ケ居レリ右ノ如ク敵國船舶ノ差押
 敵國人ノ收容及其財産ノ保管ノ手續ヲナスト同時ニ捕獲審檢所ノ設置對敵通商禁止法ノ制
 定アリ又通信ノ檢閲ヲ開始セリ從來獨人ノ金融機關ト目サレタル *The Siam Commercial*
Bank ハ其支配人(獨人)ノ收容ト共ニ磐谷香港上海銀行員(英人)一名ヲ傭聘シテ其後任ト
 ナシ獨人ノ機關新聞(週刊) *The Siam* ハ其編輯人ノ收容ト共ニ自然廢刊トナレリ尙暹羅國
 政府ハ獨人ニ授與シタル暹羅國貴族籍及同國勳章ヲ褫奪シタリ
 在盤谷英佛公使館ハ宣戰布告ノ當日何レモ橋頭高ク暹羅國國旗ト自國國旗ヲ併揚シ又在留
 外國人中(聯合國側)國旗ヲ掲ケテ祝意ヲ表スルモノアルヲ見受ケタリ
 宣戰布告ノ前後ニ於テハ磐谷市中ハ勿論國內各地ニ於テ種々ナル流言蜚語行ハレ爲メニ一
 時民心ノ昂奮セルヲ見タルモ漸次平靜ニ復歸シタリ

支那國法令

支那國法令

第一 支那宣戰全文

(外事彙報大正六年第九號)

支那政府ノ對獨塊宣戰ニ關スル大總統令左ノ如シ
我中華民國政府ハ曩ニ獨國カ潛航艇計畫ヲ施行シ國際公法ニ違犯シ中立國人民ノ生命財產
ヲ危害セルヲ以テ嘗テ本年二月九日獨國政府ニ對シ抗議ヲ提出シ且萬一抗議無效ノ場合ニ
ハ已ムヲ得ス獨國ト外交關係ヲ斷絶スル旨ヲ聲明セリ料ラサリキ抗議ノ後其潛航艇計畫ハ
更ニ少シモ變更セラレス中立國ノ船舶交戰國商船ノ損ニ擊損セラレ、モノ日ニ其數ヲ增加
シ我國人ノ被害者亦甚タ多ク我政府ハ抗議ノ無效タルヲ認メサル能ハス痛ヲ忍ビ安ヲ偷マ
ント欲スト雖モ以テ義ヲ尊ヒ耻ヲ知ルノ國人ニ謝スルナキノミナラス以テ且ツ仁ニ當リテ
讓ラサルノ與國ニ謝スルナク中外共ニ憤ル因テ遂ニ三月十四日獨國政府ニ對シ外交關係ノ
斷絶ヲ宣告シ且ツ經過狀況ヲモ中外ニ宣示セリ我カ中華民國政府ノ希望スル所ノモノハ平
和、其ノ奉スルノ所ノモノハ公法、其ノ保護スル所ノモノハ我カ本國民ノ生命財產ナリ初メ
獨國ニ仇アルニアラシ若シ獨國政府ニシテ禍ヲ悔ユルノ心アリ公憤ヲ慮リ其戰略ヲ改メハ
之實ニ我カ政府ノ禱企スル所ニシニ俄ニ公敵ト認ムルニ忍ヒサル所ナリシナリ然ルニ絶交
以後五箇月ヲ經ルニ潛航艇ノ攻撃ハ故ノ如ク獨リ獨國ノミナラス即チ獨國ト同一政策ヲ採

ル奧國又始終其ノ態度ヲ改メヌ既ニ公法ニ背キ又我人民ヲ傷害ス我カ政府責善ノ深心茲ニ至リテ實ニ既ニ絶望セリ依テ中華民國六年八月十四日午前十時ヨリ獨奧兩國ニ對シ戰爭ノ地位ニ立ツテ宣告シ以前我國ト獨奧兩國間ニ締結セル條約契約協約及其他ノ國際條款國際協議ニシテ支獨、支奧間ノ關係ニ屬スルモノハ悉ク國際公法及慣例ニ依リ一律廢止シ我中華民國政府ハ尙海牙平和會議ノ條約及其他國際協約ニシテ戰時文明行動ニ關スル條款ハ敢テ踰越セス宣戰ノ宗旨ハ戰禍ヲ阻止シ平和ヲ促進スルニ在リ凡ソ我國民ハ宜シク此意ヲ悟リ此國變始メテ平ヲキ創夷未タ復セサル時ニ當リ不幸此禍難アリ本大總統民生ヲ顧慮シ萬非常ノ時ニアラサレハ決シテ一息急存ノ舉ヲ爲サス公法ノ崇嚴我ヨリ之ヲ失フ能ハス世界友邦ノ平和幸福ハ更ニ我ヨリ之ヲ遲惧スル能ハス願フ所ハ舉國人民發奮激勵等シク艱難ヲ共ニシ我中華民國ノ爲メニ此悠久無疆ノ國命ヲ保チ益々光輝ヲ發揚シ以テ國際團體ノ中立ヲ共ニ其ノ樂利ヲ享ケンコトヲ茲ニ布告シテ一般ニ聞知セシム

第二 支那政府電報郵便檢閱規則公布

○支那政府電報郵便檢閱規則公布(九月五日官報) 本件ニ關シ同國駐劄林特命全權公使ヨリ去月二十二日附テ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

支那政府ハ獨奧兩國ニ對シ宣戰シタル結果交通部ヨリ八月十四日附テ以テ電報郵便ニ關スル檢閱規則ヲ公布シタリ該規則譯文左ノ如シ

電報ニ關スル交通部通告(中華民國六年八月十六日政府公報揭載)

我國政府已ニ獨奧ニ宣戰セリ依テ國內外ノ往來一切ノ電報ハ均シク分別一律檢査シ以テ慎重ヲ昭ニス各電報局ニ訓令スル外茲ニ政府所定ノ電報檢査辦法ノ要領ヲ左ニ記載シ特ニ通告ス

- 一、國內外往來電報ハ許可アリタル官報ヲ除ク外均シク電報局ノ檢査ヲ受クルコトヲ要ス
- 一、一切ノ私報電文(普通電報)ノ後ニハ發信人ノ姓名ヲ明記シ規則ニ依リ電報料ヲ徵收ス
- 一、獨奧文ノ電報ハ官報私報暗號平文共ニ發電受電ヲ停止ス
- 一、國內外往來ノ暗號私電ニシテ其發信人若シ外國人ナレハ獨奧人ヲ除ク外其駐在地ノ本國公使或ハ領事ノ官印ヲ押シテ該電文ハ商務或ハ私事ニ限ルコトヲ證明ス電報局ハ發信人或ハ受信人ニ對シ暗號符合ヲ電報局ニ交付シ檢閱ヲ要求スルコトヲ得若シ本國商民ニシテ暗號電報ヲ發センニハ特ニ許可ヲ得タルモノヲ除クノ外又各地行政機關或ハ商會ヨリ印ヲ押シ證明シタル上發信ヲ許ス
- 一、本國各官設機關ノ暗號私電ノ發信ハ均シク各該機關ノ印ヲ押シ證ト爲スコトヲ要ス
- 一、電報ニシテ只受信人ノ人名地名ノミニテ電文ナキモノハ概シテ發電受電セス
- 一、國內外ニ發スル一切ノ私電ハ完全ニ配達シ得ラル、ヤ否ヤハ電報局概シテ責任ヲ負ハス

支那國法令

六〇二

一、一切ノ私電ハ若シ検査員ニ於テ大局ニ妨アリ法律ニ違反アリト認ムルモノハ直ニ控留シ發電受電ヲ停止ス

中華民國六年八月十四日

郵便ニ關スル交通部通告(中華民國六年八月十六日政府公報掲載)

我國政府ハ現ニ已ニ獨塊ト宣戰シタルニ付我國及各國往來ノ郵便物ハ均シク分別一律ニ

検査シ以テ慎重ヲ昭ニス獨塊以外ノ我國ニ設置スル各國ノ郵便ハ自ラ員ヲ派シテ檢

査スル外茲ニ政府所定ノ郵便局検査辦法ノ要領ヲ左ニ掲ケ特ニ通告ス

一、我國人民ト敵國人民及其他各國人民トノ往來郵便物ハ一律ニ検査ス

一、本國政府機關ノ公文及各國公使館領事館ノ公文ハ均シク検査ヲ免ス

一、検査機關ハ各重要地方及通商開放地ニ於ケル各郵便局内ニ附設ス

一、検査人員ハ各省地方長官ヨリ適當ナル員ヲ選派シテ充任ス

一、檢閱済ノ郵便物ハ必ス検査員ノ檢閱済ノ支那及英文ノ證明印ヲ押シテ證據トス

一、検査手續ハ出來得ル限迅速ニ行ヒ遲延時間ヲ極力短縮スヘシ

一、検査人員ハ檢閱シタル郵便物ニ對シ祕密ヲ嚴守スルノ責任ヲ負フモノトス

中華民國六年八月十四日

第三 支那審理敵國人民民事訴訟臨時規則

(通商公報第四四九號)

(大正六年八月十六日附在支帝國
特命全權公使男爵林權助報告)

八月十四日附大總統令ヲ以テ審理敵國人民民事訴訟臨時規則公布セラレ其譯文左ノ如シ

○審理敵國人民民事訴訟臨時規則(敕令第十二號、八月十四日公布)

第一條 敵國人民ノ民事訴訟ハ戰爭期內ニ在リテハ均シク支那法院ニ於テ之レヲ審理ス

其敵國人民ト外國人民トノ民事訴訟ニシテ條約ニ據リ該外國領事ノ審理ニ歸スルモノハ

此限リニアラス

第二條 前條記載ノ第一項民事事件第一審ハ刑事訴訟律草案第六條第三款第四款舉クル所

ノ各罪ヲ除クノ外均シク地方審檢廳ニ於テ辨理シ未タ地方審檢廳ヲ設置セサル各縣ニ於

テハ該管地方官ヨリ案件ヲ附近ノ地方廳ニ移送辨理シ新疆、熱河、綏遠、察哈爾等ノ地

方ニ於ケル上記地方廳ノ職權ハ司法籌備所、都統署、審判所又ハ審判所附設ノ地方庭ニ

於テ之レヲ行フ前項管轄ヲ除クノ外前條第一項民事訴訟審理事項ニ關シテハ法院編制法

及其他法令ノ規定ヲ適用ス

第三條 民事事件ニシテ拘留シ及刑事判決ヲ執行シ或ハ民事ニシテ教養局ニ收容シ職工ニ

從事セシムヘキ敵國人民ハ均シク新監獄内ニ於テ之レヲ行フ

支那國法令

六〇三

第四條 本規則若シ修正ヲ要スル事項アラハ司法部ヨリ大總統ニ稟請シ教令ヲ以テ之レヲ行フ

第五條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第四 天津ニ於ケル特別區市政管理局

(外事彙報大正六年第九號)
(大正六年八月十七日附報告)

八月十四日支那ノ對獨塊宣戰公布ノ結果即日天津ニ特別區市政管理局ヲ設ケ天津警察廳長楊以德氏局長兼任ヲ命セラレタルカ元來天津ニハ對獨國交斷絶後直チニ獨逸租界ヲ支那ニ於テ接收シ特別區臨時管理局ナルモノヲ設ケ楊警察廳長右局長ヲ兼任シ來タルニ今回對獨塊宣戰ノ結果當時ト事情ヲ異ニスルニ至リタルヲ以テ臨時ナル文句ヲ改ムルノ必要ヲ生シ且ツ管理事務ノ多クハ市政ノ範圍ニ屬スルヲ以テ特別區臨時管理局ヲ特別區市政管理局ト改稱シ殊ニ天津ニハ獨逸並ニ塊地利二國ノ租界存在スルヲ以テ事權ヲ統一センカ爲メ特ニ楊以德氏ヲ天津特別區市政管理局長ニ命シ舊獨塊兩國租界ヲ管理セシムルコト、ナリタル次第ニシテ八月十四日大總統ノ裁可ヲ經テ內務總長ヨリ左ノ如キ簡章ヲ公布シタリ

特別區市政管理局簡章

第一條 管理局ニ局長一人ヲ置キ省長ノ指揮監督ヲ承ケ左記各職權ヲ行使ス

一、管理局内一切ノ行政事務

二、警察ヲ管理シ並ニ警察處分其他行政處分ヲ實施ス但シ外交事件ニ關涉スルモノハ應サニ特派該省交涉員ト會同シテ辨理ス可シ

第二條 管理局ニ補助員ヲ置クコト左ノ如シ其員數ハ局長ヨリ酌定シ省長ヨリ內務部ニ上申シテ案ニ備フ

- (一) 主任局員
- (二) 局員
- (三) 顧問
- (四) 雇員
- (五) 書記

第三條 市内當然行フヘキ地方公益事業ニシテ繼續シテ進行スヘキモノアレハ將サニ該管理局ヨリ辦法ヲ酌定シ省長ヨリ內務部ニ上申シテ之ヲ核定ス

第四條 局長發布ノ各種單行章程ハ應サニ省長ヨリ內務部ニ上申シテ之ヲ核定ス

第五條 凡テ未ダ規定ヲ經サル事項ハ局長ヨリ辦法ヲ擬定シテ省長ヲ經テ內務部及各主管部ニ上申シ之ヲ核定ス

第六條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

南米諸國法令

南米諸國法令

第一 智利國向船荷證券記載事項改正令中止

○智利國向船荷證券記載事項改正令中止(九月七日官報) 本件ニ關シ在同國臨時代理公使飯島龜太郎ヨリ本年七月十日附テ以テ左ノ如ク報告アリ本年四月七日日本欄内參看(外務省) 本年二月十二日附テ以テ報告シタル智利國向船荷證券記載事項ニ關シ其後當國政府ハ各種商業者ノ請願ヲ容レ現下歐洲戰役中一般通商及工業カ異常ノ狀態ニ在ルヲ理由トシテ稅關監督廳トノ協議ノ結果去ル五月十八日附大藏省令第一一〇〇號ヲ以テ前記改正令ハ新規則發布マテ其實施ヲ中止シ船荷證券記載事項ハ從來ノ一九一五年七月五日附省令第六九三號領事規則第二八三條ノ規定ニ遵由スヘキ旨公布セリ

第二 伯國中立撤廢ニ關スル事項

(外事彙報大正六年第九號)
(第七號「伯獨國交斷絶及伯國ノ中立撤廢ニ關スル事項」參照)
(一) 本邦外五聯合國及獨逸間ノ戰爭ニ對スル伯國中立令撤廢

南米諸國法令

(大正六年六月二十九日附報告)

伯國政府ハ曩ニ佛、露、英、日、葡及伊ノ六箇國カ順次獨逸國ト交戰状態ニ入りタル際其ノ都度發令シタル局外中立令ヲ本月二十八日附官令第一二、五三三號ヲ以テ一率ニ撤廢セリ之ハ米獨戰爭中伯國ノ局外中立ヲ規定セル官令廢止ヲ宣言セル六月一日國會令第二條ノ二ニ於テ行政部ニ對シ「外國ニ於ケル伯國航海業防護ノ所置ヲ執ルコト而シテ輸出入貿易ノ自由ヲ保障スル措置ヲ親交諸國ト協定スルコトヲ得ヘク尙此目的ノ爲メ若シ便宜ト思考スル場合ニハ爾餘ノ局外中立令ヲ廢止スルコト」ヲ得ヘシトノ權限ヲ附與セルヲ以テ仍チ此權限ヲ行使シタルモノナルカ單ニ北米合衆國ノ爲メノミニ中立撤廢ヲナストキハ一見シテ伯國カ同國ニ捲込マレタル觀ヲ呈スヘキヲ以テ一旦此態度ニ出テタル以上ハ追テ之ヲ他ノ聯合諸國ニモ及ホスノ意志アリシハ右國會令ノ明文並ニ其ノ由來ニ徴シ極メテ明白ナリシモ而カモ其ノ時機並ニ之ヲ聯合諸國中ノ何レニ及ホシ適用スヘキヤハ當時尙未定ニ屬シ多分伯國產物殊ニ珈琲ニ對シテ其ノ輸入ヲ禁止若クハ制限セル英、佛、伊諸國ニ對シ此種ノ禁制緩和ヲ交渉シ其ノ交換條件トシテ此等聯合國軍艦ノ伯國港出入及碇泊ヲ容易ナラシムル爲ニ中立撤廢ヲ行フナラントノ風説モ傳ヘラレシカ遂ニ今回稍々突然ニ我國ヲモ加ヘテ都合六箇國ヲ中立撤廢令中ニ網羅スルコト、ナリ結局獨逸ト交戰状態ニ在リテ之ニ對シ伯國カ從來中立ヲ遵守シ來リタル諸國中ルーマニアノミヲ除キ其他全部(合計七箇國)ニ對シテ其ノ中立ヲ撤廢シタルモノナリ

而シテ伯國政府ハ右中立撤廢ニヨリ獨逸軍國主義ノ狂暴ヲ膺懲スル爲メ獨逸ヲ共同ノ敵ト

セル上記七箇國ニ對シ精神上及物質上ノ援助ヲ與フルモ而カモ伯國ノ地理上ノ位置及軍備ノ現状ニ鑑ミ其ノ陸海軍ヲ歐洲ニ派遣スルカ如キコトハ到底行ハレサルト共ニ又其ノ政策及民論ニモ副ハサル所ナルヲ以テ斯ク中立撤廢ヲ行ヒナカラ尙且獨逸ト戰爭状態ニ在リトノ名義ヲ使用スルコトヲ避ケ中立撤廢ト交戰状態トノ中間ニ一種特別ノ地位ヲ案出セルモノナリ

最近英國巡洋艦「グラスゴー」カリオ、テ、ジャネイロ港ニ二十四時間以上碇泊シテ物議ヲ醸サントシタル一事ハ察スル所今回ノ中立撤廢令公布ノ一原因タルヘク又我國ヲ六聯合國ノ一二加ヘタルハ英、佛、伊、諸國ノ陪賓タルニ過キサルヘキモ而カモ伯國政府カ本邦ヲ之ニ加フルニ當リ我カ驅逐艦カ地中海ニ於テ敵潛航艇退治ノ任ニ當リ居レリトノ新聞ノ報道ニ接シ之ニ加フルニ又大阪商船會社及日本郵船會社汽船カ最近引續キ二隻リオ、テ、ジャネイロ及サントスニ入港シ微少ナカラモ伯國輸出入貿易ヲ幫助セル事實ヲ知リ上記國會令中ニ謂フ所ノ「外國ニ於ケル伯國航海業防護ノ處置並ニ輸出入貿易ノ自由保障」ニ幾分有益ナル要素タルコトヲ考慮ニ加ヘタルナラントノ推測ハ本月中二回ノ會見ニ於ケル外務卿ノ談話ニヨリ爲シ得ル所ナリ

附一 千九百十七年六月二十八日官令第一二、五三三號伯刺西爾合衆共和國大統領ハ伯國憲法第四十八條第十四ヲ以テ附與セラレタル權能ヲ行使シ且國會カ本年六月一日國會令第三、二六六號第二條第二ニ於テ聲明セル所ニ從ヒ佛蘭西及露西亞、大不列顛國、日本、葡萄牙並ニ伊太利ノ獨逸帝國ニ對スル戰爭中完全ナル局外中立遵守ヲ命シタル千九百十四年八月

南米諸國法令

六一〇

四日官令第一一、〇三八號、同年八月十二日官令第一一、〇六六號、同年八月二十四日官令第一一、〇九二號、千九百十五年三月十日官令第一一、九八四號及千九百十六年八月二十九日官令第一二、一七一號ハ之ヲ其ノ效力ナキモノト宣言シ且之ニ抵觸スル規定ヲ廢止スルコトニ決セリ

千九百十七年獨立第九十六年共和第二十九年六月二十八日

リオ、デ、ジヤネイロニ於テ

大統領 署名

外務卿 副署

參照——憲法第四十八條、左記ノ事項ハ共和國大統領ニ專屬スル權能トス

(第一乃至第十三、略)

第十四、外國トノ關係ヲ維持スルコト

(第十五及第十六略)

附二 世界戰爭ニ對スル伯國中立發令及中立撤廢一覽表

交 戰 國 名	中立令日附	中立令番號	中立撤廢令日附	中立撤廢令番號
獨	佛、露	一九四、八一四	一九〇三六	一九七六、二六
英	獨	八一三	二〇六	〃
佛	獨	八一七	二〇六	〃
獨	露	八一七	二〇六	〃

日	獨	八二四	一九〇九二	一九七六、二六	二二、五三三
英	獨	九一三	二一、二一八	〃	〃
英	土	一一	二一、三五三	〃	〃
伊	獨	一九五、五二四	一九五九〇	〃	〃
伊	土	八二四	二一、六八四	〃	〃
英	ブルガリヤ	二〇三	二一、七五一	〃	〃
伊	ブルガリヤ	一九五、二〇七	二一、七六三	〃	〃
葡	獨	一九六、三二〇	一九八四	一九七六、二六	二二、五三三
伊	獨	八二九	二一、七七一	〃	〃
ルーマニヤ	獨	〃	二一、七七一	〃	〃
獨	ルーマニヤ	〃	二一、七七一	〃	〃
北米	獨	一九一七、四二五	二二、四五六	一九七六、二六	國會令 三二六六

(二) 伯國ノ對米中立撤廢ニ對スル列國ノ回答

(大正六年六月二十八日附報告)

米獨間戰爭ニ對スル伯國ノ態度確定シタル結果トシテ中立撤廢令公布セラレタルヲ以テ外務卿ハ右中立撤廢ノ事實ヲ親交諸國ニ通知スルト同時ニ伯國方此態度ヲ執ルニ至リタル由南米諸國法令

來ヲ説明スヘキコトヲ在外大使ニ訓令シタルカ右伯國政府ノ通牒ニ對スル諸外國政府ノ回答公文若クハ其ノ要領ハ當國外務省ニ於テ接受スル度毎ニ之ヲ新聞紙上ニ掲載セシメ居リ今日マテニ到達公表セル分既ニ十三箇國ニ及ヘリ而シテ各國回答振ノ比較研究ハ此際興味尠カラスト思考セラル、ナ以テ右中立撤廢ノ目的國タル北米合衆國ヲ初メトシ其ノ他ノ米洲姉妹國及歐洲聯合諸國ニ就キテ一々其ノ要領ヲ摘記セントス

北米合衆國——臨時國務卿ホルク氏ハ伯國公文接受ノ旨ヲ告ケタル後「合衆國カ國民主權ノ原則ヲ斷定的ニ保障シテ征服ヲ防キ且野蠻ヲ懲罰スル人道戰ニ於テ戰爭ノ苦患及慘害ヲ輕減セント努力セルニ際シ伯國ノ友誼的合力ノ通知ニ接シタルハ予ノ深ク欣幸トスル所ナリ文明ヲ保護シ且人道ヲ尊重セシムル方法トシテ刻下最重要ナル米大陸連帶協力ノ爲メ伯國政府ノ爲セル多大ノ貢獻ハ合衆國充分ニ之ヲ推重ス其ノ最後ノ結果ニ於テ米洲諸共和國全體ノ幸福ニ資スル所アルヘキ伯國政府ノ傳統的政策ニ由來セル確乎タル態度ニ對シ合衆國政府及人民ハ伯國政府及人民ニ向ツテ謝意ヲ表ス云々」ト述ヘタリ

亞爾然丁共和國——亞國政府ハ伯國政府今回ノ通知公文ヲ接手スルニ當リ去ル四月十二日附公文中ニ表明シ置キタル感情ヲ再ヒ表明ストイヘル極メテ簡短ナル回答ニシテ茲ニ所謂四月十二日附公文ナルモノハ伯國斷交ニ關スル伯國政府ノ通知ニ答ヘタルモノヲ指シ該公文中「亞國政府ハ最近其ノ意見トシテ發表シタル萬國公法(原文ノ儘)原則ヲ擁護防衛スル爲メ伯國政府カ此主義ヲ實踐シテ執リタル態度ヲ適當ニ評價シ併セテ伯國ニ向ツテ最モ實實ナル コンフラターニテイ 友愛ノ感情ヲ表明ス」トアルヲ繰返スモノニ外ナラス一見シテ頗ル冷淡

ナルヲ知ルヘシ

智利國——曩ニ伯獨斷交通知ニ對スル智利政府ノ回答頗ル簡略ニ失シ同國新聞紙スラ之ヲ以テ智利國民ノ感情ヲ代表スルニ足ラストノ批評攻撃ヲ加ヘタル程ナリシカ今回ノ中立撤廢通知ニ對スル回答ハ之ニ反シ甚タ長文ニシテ亞國ノ回答ト相俟ツテ好箇ノ對照ヲ成セリ其要旨下ノ如シ「最モ緊密ナル友愛的相信ノ鍵鎖ヲ以テ永年伯國ト相結ヘル智利ハ此困難ナル時局ニ際シ現戰亂中、中立諸國ノ海上主權ニ加ヘラレントシタル制限ノ結果カ伯國ノ驅ラレタルニアラスシテ畢竟其ノ權利ヲ防衛セントスル高義心及伯國カ他ノ拉典亞米利加諸國ト共同ニテ爲セル宣言ノ履行ニ因ルモノナルヲ了解スルト同時ニ智利政府及智利ノ輿論ハ斯カル事件ノ出來ヲ促スニ至リタル原因ヲ痛歎ス伯國カ現ニ踏襲セル政策ハ既ニ其ノ帝政時代ニ於テ先例アル傳統的ノモノニシテ米大陸ノ親交姉妹國ニ何等カノ事件起ル毎ニ常ニ實行セル所ナリトノ記述ハ特ニ智利國ノ欣悅スル所ナリ(註、一八六六年西班牙艦隊ノブルパライソ港砲擊事件ニ對スル伯國政府ノ抗議及一九一〇年「オルソップ」事件ニ於ケル伯國ノ居中調停等ヲ想起セルナリ)尙今後如何ナル事態ノ生スルヲ間ハス伯國政府ハ自由國民タルノ良心ヲ以テ其ノ義務ヲ履行シ且總ヘテ公私ノ權利ヲ依然保障スヘシトノ高潔ナル心事ハ凡テノ文明諸國カ舉ツテ賞讃スル所ナルヘシ」

烏爾圭國——最近對獨及對米關係ニ於テ亞國ヲ袖ニシ專ラ伯國ノ驥尾ニ附隨シ遂ニ其例ニ倣ヒテ本月十九日(本回答後)ヲ以テ一種ノ中立撤廢令ヲ發スルニ至レル烏國政府ハ伯國政

府公文中ニ記載セラレタル所ニ同情シ且全米諸國舉ツテ米洲政策ヲ確立シ全大陸連帶協合ノ精神ニ基キテ之ヲ遵奉履行スルニ至ランコトヲ更メテ切望ス新大陸ノ諸國民ハ皆一様ニ民主主義テフ永久的鎖鎖並ニ正義自由ノ同一信念ニヨリテ結合セルモノナルヲ以テ今日世界ヲ震駭セシメツ、アル時局ニ際シ苟モ米洲諸國中ノ一ニ對シテ行フ國際法規既認原則違反行爲ハ仍チ米洲諸國全體ニ對スル侵害行爲トシテ其ノ共同的反抗ヲ惹起セシメンカ爲メ密接ナル連帶行動ヲ劃定スルノ必要アリ烏國ハ米洲諸國カ一ノ大陸會議ノ開催若クハ其ノ他何等カノ方法ヲ以テ本大陸ニ於ケル連名決議ヲ爲スニ至ランコトヲ希望ス云々ト回答シ一方ニ於テ從來ノ北米「モンロー」主義ヲ變シテ全米「モンロー」主義ヲラシメントスル伯國政府ノ主張ヲ全然賛成スルト同時ニ地方ニ於テ亞國ノ發意ニ係リ而カモ目下行惱ミノ姿ナル米洲中立國會議ノ開催ニモ賛成シ兩隣ノ二大國ニ向ツテ等シク媚ヲ呈セル所亦一奇觀タルヲ失ハス

ボリギヤ國——既ニ獨逸ト國交ヲ斷絶セルボリギヤ國政府ノ回答ニハ「共和國大統領閣下ハ伯國公文中ニ崇高ナル米洲精神ヲ以テ記載セラレタル各節ヲ最大ノ興味ヲ以テ閱悉セラレタリ全然國際法ノ原則ヲ無視シテ獨逸カ使用セル戰鬪方法ノ爲メ有ラユル形式ニ於テ損傷ヲ蒙リタル中立諸國ノ權利防護ヲ目的トシテ伯國カ合衆國ト事ヲ共ニシ以テ「モンロー」主義ニ恰適ノ解釋ヲ加ヘタル態度ハボリギヤカ多大ノ同情ヲ以テ注視セル所ナリ云々トアリテ「モンロー」主義ヲ全米的ノモノニ變更スルコトニ賛成セル點ハ烏國ト同様ナリ

祕露國——主トシテ伯國政府公文ノ要點ヲ繰返シテ回答ヲ爲シ纒カニ其末段ニ至リテ「伯

國政府來翰中ニ記載セラレタル重要ナル言明ハ刻下各般ノ事物ニ普及セル粉料及大禍ニ對シテ凡ヘテ米洲諸國カ既ニ聲明シタル所感及法律ノ概念ト一致ス」ト述ヘ又「伯國政府ヲ動かシタル感情ヲ謝ス」ト記セルノミニシテ何等祕露政府トシテノ所見ヲ表白セス

コスタリカ國——伯國公使駐劄セサルヲ以テ伯國外務卿ヨリ電信ヲ以テ中立撤廢ヲ通知シタルニ對シコスタリカ國外務卿ヨリ「伯國ノ中立撤廢令發布ノ理由ハ小國ノ擁護、米大陸ノ連帶協力、「モンロー」主義ノ眞解釋及國際法ノ回復ヲ意味スルモノナルヲ以テコ國大統領ハ最上ノ満足ヲ以テ之ヲ閱讀セラレタリ斯ク決然トシテ人道救拯ノ公事ニ參加セル伯國政府ハコ國政府及人民ノ最モ誠實且懇篤ナル歡迎ヲ受クル」旨ヲ回答シ是亦伯國カ全米「モンロー」主義ヲ標榜シテ北米合衆國ニ加擔セルコトヲ最モ率直ニ賛成セリ

オンドゥーラス國——此國モ亦伯國公使駐劄セサル爲メ兩國外務卿間ニ直接往復ヲ爲シタルカ伯國通牒ニ對スル回答トシテオンドゥーラス國政府ハ其ノ合衆國トノ間ニ存スル懇篤ナル友誼、利害ノ一致共通及米洲連帶協力ノ精神ニ動かサレ去ル五月十七日ヲ以テ北米合衆國カ防護シツ、アル公事ニ加盟スルコトニ決シ仍チ獨逸政府ト外交關係ヲ斷絶シタル旨ヲ通告シタル末、オ國政府及人民ハ本大戰ニ於ケル伯國ノ高貴ナル態度ニ十分ナル満足ヲ表スト附言セリ

英國——聯合諸國中、伯國ノ通牒ニ對シテ最モ簡潔ナル回答ヲ與ヘタルハ英國ニシテ「伯國カ正義ト自由トノ爲メニ抗爭スルノ決心ヲ爲シタルコトハ最大ノ喜悅ヲ以テ之ヲ承知セリ仍チ英國皇帝陛下ノ政府ノ同情及友誼ト併セテ之ヲ伯國政府ニ傳達アランコトヲ乞フ」ト

ノ意味ニテ認メラレタリ

佛國——佛國ノ回答ハ「佛伯兩國ハ其ノ制度並ニ民主思想ノ共通ニ加フルニ先天的近似ヲ以テシ今ヤ日耳曼主義ノ優越ヲ圖ラントスル野心ニ對シテ結束セリ自由諸國民チシテ勝タシメンカ爲メ樂觀的ニ多大ノ試煉ト犠牲トヲ忍ヒテ同一主義ニ盡瘁セル諸國間ノ同情ヲ増加シタル佛國ハ其ノ感謝ノ情ヲ佛國政府ノ謝辭ト併セテ之ヲ伯國ニ表彰ス同一目的ノ爲メニ參戰シタル北米合衆國ト提携セル伯國ノ態度高潔ニシテ且其ノ目的ノ高尚ナルコトハ最も熱誠ナル賞讃ニ値ス云々」トノ意味ニテ認メタル可ナリ長文ノモノナリ

伊太利——伊國政府回答ノ要點ハ「伯國カ諸國ノ正義及自由ノ勝利ヲ企圖スル所ノ世界戰爭ニ於テ其光榮アル傳説ニ基キ自國ノ爲メ留保セラレタル地位ニ就キタルコトヲ承知スルハ伊國政府及人民ノ最も満足スル所ナリ」トイフニ在リ

露國——露國假政府ハ先ツ伯國政府ノ高尚ナル動作ヲ著シク推重スル旨ヲ告ケタル後、伯刺西爾共和國ハ忠實ニ其ノ自由主義ニ則リ而シテ何等戰爭ノ野望ナキニ拘ラス其ノ傳統的友誼關係、同一ノ政治思想及國際法ノ尊重ニ基キテ合衆國ト結束シ以テ獨逸カ單ニ其ノ敵國ノミニ限ラス延イテ中立諸國ニマテモ及ホセル激烈ナル戰爭ノ進行ニ對シ伯國ノ爲メ指示セラレタル態度ヲ執ルニ躊躇セサリシモノナリト賞揚シ最後ニ權利及公平ヲ目的トセル此斷乎タル行動ニ對シテ伯國ニ祝辭ヲ呈スト述ヘタリ

葡萄牙國——元來伯國ト本家分家ノ特種關係ヲ有スル葡萄牙共和國政府回答ノ趣旨ハ「米大陸ノ一部分ヲ成セル自由國民ニシテ外交上廣汎ナル傳説ヲ有シ且國際法尊重者タル伯國

カ權利、正義及國民ノ獨立ヲ標榜シテ之ト同一主義ノ爲メニ歐洲ニ於テ戰ヒツ、アル諸國ニ加擔セル北米合衆國ト提携スルニ至リタルコトヲ賞讃シ而シテ伯國ノ此決定ハ葡國ニ於テハ他ノ何レノ國ニモ勝レル大満足ヲ以テ迎ヘラレタリ蓋シ葡國ハ種々ノ點ヨリ見テ伯國民ノ兄弟ニシテ世界史上嚴肅ナル此秋ニ當リ兩國同然ノ一新證左ヲ得タルハ葡國人民ノ大ニ欣喜スル所ナリ」トイフニ在リ

(三) 伯國諸港繫留獨逸商船徵發利用令ノ公布

(大正六年六月六日附報告)

伯國大統領ハ米獨戰爭ニ對スル伯國局外中立令廢止ヲ命スル本月一日ノ國會令ヲ以テ附與セラレタル權能ヲ行使シ伯國諸港ニ碇泊セル獨逸商船全部ヲ徵發利用スル爲メ本月二日官令(末尾ニアリ)ヲ發シ之ヲ翌三日ノ官報ニ掲載スルト同時ニ外務卿ヨリ二日附同文公文ヲ以テ在伯國各公使館ヘモ其ノ全文ヲ通牒シタルヲ以テ獨逸公使引揚後伯國ニ於ケル獨逸國ノ利益ヲ代表セル和蘭公使ハ獨逸政府ノ名ニ於テ本月二日附ヲ以テ此等獨逸船ノ徵發利用ニ對シテ正式ニ抗議ヲナシタルカ之ニ對シ外務卿ハ右伯國政府ノ處置ハ獨逸カ水雷ヲ以テ伯國船舶ヲ擊沈シタルニ對スル正當ノ防衛手段ニシテ獨逸ノ法律モ亦之ヲ認ムル旨ヲ述ヘ且獨逸國際法學者ヘフテルノ所說ヲ援用シテ獨逸政府ノ抗議ヲ反駁シタル公文ヲ和蘭公使

ニ送附セリ右官令ハ左ノ如シ

千九百十七年六月二日官令第一二、五〇一號

伯刺西爾合衆共和國大統領ハ本年六月一日國會令第三、二六六號第二條ノ一ヲ以テ附與セラレタル權能ニ基キ發令スルコト左ノ如シ

第一條 伯刺西爾政府ハ共和國ノ諸港ニ碇泊セル總テノ獨逸商船ヲ航海通商ノ便宜及必要ニ鑑ミ政府ニ於テ適當ト思考スル如ク利用スル爲メ之ヲ徵發ス

第二條 上記國會ノ規定ニ基キ此等船舶ヲ占有シタル上ハ直チニ國旗ヲ掲揚スルコトヲ得シムル爲メ之ヲ伯刺西爾船舶ト見做スヘシ

第三條 政府ハ此等船舶方出來得ル限リ短期間内ニ第一條ノ規定ニ從ヒ航海シ且運輸任務ニ服シ得ラルヘキ處置ヲ講スヘシ

第四條 本令ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

(四) 米國獨立祭ニ際シ伯國官民ノ同情表彰ノ情況

(大正六年七月五日附報告)

伯國政府カ對獨關係ニ於テ北米合衆國ト提携スルコトニ決シ米獨戰爭ニ對シテ假リニ發令シアリタル中立ヲ撤廢シ其ノ後更ニ北米合衆國ヲ通シテ聯合諸國ト結束スルニ至リタル結果トシテ米、伯二國ノ關係ニ一新生面ヲ開キ曩ニ中立撤廢令公布ニ際シテ兩國大統領間ニ

町重ナル電信ノ交換アリタルヲ初メトシ其後間モナク Pittsburg, South Dakota, Frederick 及 San Diego ノ四艦ヨリ成ル米國艦隊ノ伯國港ニ到着スルアリ本艦隊ハ「アドミラル」Caperton 司令ノ下ニ最初バイヤ港ニ入り數日間碇泊シテ同地官民ノ歡迎優待ヲ受ケ其ノ内「フレデリック」艦先ツ發シテ六月十八日リオ、デ、ジャネイロニ入港シ後四日ヲ經テ他ノ三艦モ亦同港ニ來集シタルヲ以テ時節柄特ニ伯國官民ノ優遇スル所トナリ艦隊司令官以下將校ハ慣例ニ從ヒ二十三日ヲ以テ共和國大統領ニ謁見シタル外二十四日ニハ米國大使開催ノ歡迎會、二十五日ニハ伯國海軍ノ催ニ係ル「ビクニック」二十六日ニハ外務卿ノ歡迎會ニ招待セラル、等類リニ歡待ヲ受ケツ、アル間ニ本月四日ノ米國獨立祭ニ際會シタルヲ以テ伯國官民ハ之ヲ機トシテ米國ニ對スル同情ヲ發露センカ爲メ盛ンニ同祭日ヲ祝スルノ計畫ヲ立テタリ而シテ是ヨリ先キ伯國政府ハ六月二十八日ヲ以テ六聯合國ノ爲メニ中立撤廢ヲ行ヒ之ト前後シテ入港シタル英國巡洋艦 Glasgow 及 Macedonia 並ニ佛國巡洋艦 Marsellaise モ偶然 リオ、デ、ジャネイロ港ニ落合ヒタルヲ以テ更ニ英佛二國ノ爲メニモ同情表彰ヲ行フコト、ナリ政府ハ當日ヲ國祭日タルヘシト命シ國會モ米國ニ敬意ヲ表スル爲メ休會シ共和國大統領ハ自ラ米艦隊ノ旗艦「ピッツバーグ」ヲ訪問シタル後、米、英、佛三國軍艦ノ乗組水兵及伯國水兵合セテ四千名以上ヲ以テ組成セル市中行列ヲ參觀シ而シテ此行列通過ニ際シ市民ハ拍手喝采ヲ以テ之ヲ送迎セリ又同夜米艦隊司令官及艦長等ノ主催ニ係ル「ディアリオ」俱樂部ニ於ケル夜會ニハ大統領名代ヲ初メトシテ伯國朝野ノ名士淑女等無慮五六百名來會シ當日ノ祝祭ヲシテ殆ト米伯共通ノ國祭日タルノ觀アラシメタリ

尙伯國新聞界ノ泰斗「ジョルナル」ド、コメルシオ」ハ當日社説欄ニ

本七月四日ノ紀念ハ光輝アル特別ノ意義ヲ有ス伯國政府カ本日ヲ祝祭日タルヘシト令シタルハ民衆ノ感情及我カ國際政策ノ傳説ヲ表明シ又伯、米、佛、英四箇國ノ水兵カ上陸シテ聯合行列ヲナスハ連帶協力ノ活表彰タリ

合衆國トノ協同ハ常ニ伯國外交政策ノ基礎ニシテ伯國ハ「モンロー」主義カ相互的權利義務ヲ設定セルモノナルコト從ツテ合衆國カ一大戦争ニ從事スル場合ニハ伯國ハ中立タルコト不可能ナルヲ適當ナル機會ニ於テ聲明セント欲シタリ故ニ合衆國カ人民ノ權利及諸國民ノ獨立ヲ保護スル爲メ全力ヲ盡シテ歐洲戦争ニ參加シ伯國亦之ト提携シタル今日ニ於テ單ニ一國ノ解放ヲ紀念スルニ止マラサル北方大共和國ノ獨立祭ヲ自國祭日トシテ祝スルハ伯國ノ甚々悦喜スル所ナリ

佛、英、米三國ハ共同シテ人道ノ爲メニ戰ヘルモノニシテ伯國ハ先ツ米洲連帶協力ノ表示トシテ次キニ友誼及賞讃ノ證トシテ權利擁護者タル此等諸國ノ行動ヲ容易ナラシメント欲シ仍チ世界ヲ一新スヘキ大戰中其ノ中立國タルノ地位ヲ拋棄シ而シテ其ノ主權並ニ權利ニ於テ同等ナル佛、英、米、伯四國ハ今ヤ政治的文明及公法の教化ノ爲メニ爾餘ノ聯合諸國ト結束セリ

然レトモ本日ノ祝祭ハ平和ノ祝祭ニシテ四國水兵ノ行列ハ世界ノ法律の秩序回復ニ關シテ共有セル同一信念ヲ發揚スルモノト言フヘク自由海上ノ航行權ヲ侵害セラレタル合衆國カ國民主義ノ爲メニ蹶起シテ十字軍ヲ起セル秋ニ當リテ北米合衆國獨立祭ニ對シ吾人

ノ敬意ヲ表彰スル蓋シ當然ノ事ノミ

トノ意味ヲ記載シテ大ニ同情ヲ表シ其ノ他ノ諸新聞モ皆大體ニ於テ之ト同意義ノ說ヲ吐露セリ又當日地方ニ於テモ盛ンニ親米的「マニフェステーション」行ハレタリトイフ

第三 伯國無線電信取締法制定

○伯國無線電信取締法制定(十月十三日官報) 伯國政府ハ國內ニ於ケル無線電信及無線電話業務ヲ取締ル目的ヲ以テ之ヲ聯邦政府ノ管理ニ專屬セシムル法律(國會令)ヲ制定公布シタル趣ヲ以テ本年八月十四日附在同國臨時代理公使野田良治ヨリ同法送付アリタルカ同法中外國軍艦及商船ニ關係アル條項左ノ如シ(外務省)

伯國領土内ニ於ケル無線電信及無線電話業務ハ聯邦政府ノ專管タルヘキ旨ノ宣言令(千九百十七年七月十日國會令第三二九六號)

第一條 伯刺西爾國ノ領土内及領水内ニ於ケル無線電信業務ハ聯邦政府ノ專管トス

補款 無線電信業務ハ無線電話業務ヲモ包含スルモノトス

第六條 外國船舶ニ對シテハ豫メ遞信工務省若クハ其目的ノタメニ指定セル官署ノ認可

ヲ受ケ且ツ無線電信業務ニ關スル規則ノ條項ヲ遵守スルニ於テハ同省ノ設置ニ係ル海岸局ト通信スルタメ當該船内ニ設置セル無線電信局ヲ伯刺西爾國領水ノ内外ニ於テ利

南米諸國法令

用スルコトヲ許可ス

補款 外國軍艦ニ對シテハ海軍省ノ指定シタル官憲ヨリ該許可ヲ與フヘシ

第八條 伯刺西爾國領土内及内國船内並ニ外國船タリトモ伯刺西爾國ノ河川及領水内ニ碇泊若クハ航行中通信ヲ許可セラレタル内國局ト通信ヲ爲サントスル船舶内ニ設置セラレタル總テノ無線電信局ハ現行ノ内國及國際無線電信業務ニ關スル規則ノ條項ヲ遵守スルコトヲ要ス

第九條 内國商船相互ノ間及内國商船ト船内ニ無線電信局ヲ有スル外國船舶トノ間並ニ上記船舶ト逡信工部省所屬ノ伯刺西爾國海岸局トノ間ノ無線電信通信ハ之ヲ許可ス

第十條 私人ニ對シテ無線電信業務ノ施設ヲ許可スル一切ノ特許並ニ外國船舶ノ船内ニ裝置セル當該機器ノ使用ニ對シテ與フル一切ノ認可ハ若シ當事者カ規則ノ條項ヲ遵守セザリシ場合又ハ海軍省及陸軍省カ國家ノ安全及其防備上必要ト思考スル場合ニハ之ヲ取消スコトヲ得

第十五條 逡信工部省所屬ノ海岸及内地無線電信局ニシテ特殊ノ目的ノタメニ設置セラレサルモノハ公衆通信取扱ノタメニ之ヲ開始ス

補款 無線電信業務ニ關シテハ責任ヲ負ハサルモノトシ事務上ノ錯誤若クハ電信ノ配達ノ過失アリタル場合ニハ倫敦ニ於テ改訂セラレタル規則第四十一條ノ規定ニ從ヒ處理スルモノトス

第十六條 文武及陸海ノ別ナク總テ伯刺西爾國ノ無線電信局ハ當該局ニ於テ受信スル救

助請求ノ呼出チ先順位ニ取扱フノ義務アルモノトス

第十七條 總テノ無線電信局ニ於テ公報ハ私報ニ先ニスヘキモノトス但シ不可抗力(變災及救助請求)ノ場合ヲ除ク

第二十一條 内國電信總務局カ通信ヲ取扱フ無線電信海岸局ハ氣象觀測ノ受信及傳送ヲ爲スヘク尙ホ一局若クハ數局ニハ千九百十二年巴里ニ會合シタル時間會議ニ依リ定メラレタル所ニ從ヒ時報ノ傳送ヲ爲スニ必要ナル裝置及機器ヲ具備セシムルコトヲ要ス

補款 無線電信ノ機器ヲ備フル内國船舶ハ海岸局ノ通達距離ニ在ルトキハ天候ニ關スル觀測ヲ海岸局ニ通報スルコトヲ要シ又同一狀態ニ在ル外國船舶ハ該通報ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ是等通報ハ之ヲリオ、デ、シアネロ氣象臺ニ報告スヘク尙ホ地方ニ於テ是等船舶ニ對シ該氣象臺ノ觀測ヲ通知スヘシ

第二十二條 倫敦ニ於テ締結シタル國際無線電信條約及本法施行ノタメ公布セラレヘキ規則ハ之ヲ伯刺西爾國無線電信業務ニ適用ス

第二十三條 計算整理ハ六箇月毎ニ内國電信總務局ト内國汽船會社代理店若クハ伯國ニ於テ外國汽船ヲ代表セル代理店トノ間ニ之ヲ行ヒ而シテ若シ外國汽船會社代理店ナキ場合ニハ國際規則(倫敦改訂)第四十二條ヲ以テ定メタル所ニ從ヒ其船舶所屬國ノ電信官署トノ間ニ之ヲ行フヘシ

第四 伯刺西爾在泊獨逸船舶

(通商公報第四六〇號)

(大正六年七月二十八日附在伯帝國臨時代理公使野田良治報告)

リオ、デ、ジャネイロ市ニ於テ發行セララル、唯一ノ英字週刊雜誌 William's Brazilian Review 最近號ニ掲載セラレタル伯刺西爾諸港在泊獨逸船舶ノ名稱、所屬會社名、噸數及載荷量(珈琲幾袋ト計算ス)一覽表ニ據ルトキハ伯刺西爾諸港在泊獨逸船舶ノ雙數ハ合計四十六隻ニシテ全伯刺西爾政府ノ徵發スル所トナリ其後若干ハ早速修繕ニ著手シタル結果内七隻(此珈琲積載量約七萬四千袋)ハ茲ニ、三週間に使用シ得ラルヘキヤニ傳ヘラル、モ諸專寬漫ナル伯刺西爾ノコトナレハ二、三週間に結局ニ、三ヶ月ヲ意味スルモノニ了解セハ間違ナカラシコトハ是レ亦同英字雜誌ノ評セル所ナリ

○伯刺西爾諸港在泊獨逸船舶表

船名	船主	造船地	總噸數	登簿噸數	積載量概算(單位珈琲十袋)
Alrich	Roland Line	獨	六六九二	四二二六	二二〇
Arnold Amstuck	Woermann Line	同	四五二六	二八九六	八八
Asuncion	H. S. A.	同	四六六三	三〇一八	九六
Bahia Laura	H. S. A.	同	九七九一	六二七三	六四

Blücher	H. A. A.	同	一三三〇〇	七五九二	六〇
Cap Koca	H. S. A.	同	五七八六	三六九八	三〇
Cap Vilano	H. S. A.	同	九四六七	五六〇九	四八
Carl Woermann	Woermann Line	同	五五五五	三四九〇	六〇
Coburg	N. D. L.	同	六七五〇	四二〇一	一〇〇
Corrientes	H. S. A.	同	三七二六	二三八八	七〇
Ebernburg	Hansa Line	同	四二七五	二七三三	七〇
Eisenach	N. D. L.	同	六七七七	四二二三	一三〇
Etruria	H. A. L.	英	五四三七	二八五五	八〇
Franken	N. D. L.	獨	五〇九九	三三三八	六六
Frieda Woermann	Woermann Line	同	二五三三	一五六九	三〇
Geittrude Woermann	Woermann Line	同	六四四六	三九六七	五〇
Gundrun	Hambge-Brem. Afr. Line	同	四七七一	二九八四	八五
Gunther	H. S. A.	英	三〇三三	一九三三	五〇
Henriette (sailer)	Vinnen Gebr.	同	二〇六六	一九二二	四〇
Henry Woermann	Woermann Line	獨	六〇六二	三六三二	六〇
Hohenstaufen	H. A. L.	同	六四八九	四〇八六	七〇
Monte Penedo	H. S. A.	獨	三六九二	二二三三	三〇

南米諸國法令

南米諸國法令

Minnenburg	Hansa Line	同	四七四八	六二六	八五
Palatia	H. A. L.	同	三五五七	二二八一	六〇
Persia	H. A. L.	同	三五六九	二二八二	六〇
Pontos	H. A. L.	英	五七〇三	三六六六	一〇〇
Posen	N. D. L.	獨	六五六九	四〇九四	一一〇
Prussia	H. A. L.	同	三五五七	二二八〇	六〇
Rauenfels	Hansa Line	英	五〇七三	三三三三	九五
Rio Grande	H. S. A.	獨	四五六六	二八七九	七五
Roland	Roland Line	同	六八七三	四二四五	一三〇
Salamanca	H. A. L.	英	五九七〇	三八二二	一〇〇
San Nicolas	H. S. A.	獨	四七三九	三〇四一	九五
Sant' Anna	H. S. A.	同	三七三九	二二一〇	六五
Santa Lucia	H. S. A.	同	四一三八	二七〇一	七〇
Santa Rosa	H. S. A.	同	三七九七	二三五五	六八
Santos	H. S. A.	同	四八五五	三二一四	九六
Siegmund	H. A. L.	英	三〇三四	一九一三	五〇
Sierra Nevada	N. D. L.	獨	八三三五	四九六九	五〇
Sierra Salvada	N. D. L.	同	八二三七	四九五二	五〇

Stadt Schleswig	H. C. Horn	同	一七〇三	六七七	二五
Steiermark	H. A. L.	同	四七五〇	二八四五	七五
Steierwald	H. A. L.	同	四八三六	二九九八	八五
Tijuca	H. S. A.	同	四八〇一	三〇六六	八八
Valesia	H. S. A.	同	五二三二	三二〇八	九六
Walburg	Hambg. Brem. Afr. Line	同	三〇八一	二二六三	六八
計			二四〇〇七三	一五〇九六三	三〇四三
次ニ前記船舶ノ在泊地別隻數ヲ示セハ左ノ如シ					
Rio de Janeiro	Ⅳ Rio Grande				二
Pernambuco	Ⅲ Paranaguá				一
Bahia	Ⅴ Parahyba				三
Santos	Ⅵ Maranhão				一
Para	Ⅱ 計				四六

第五 伯刺西爾國在泊獨船ニ積載セル貨物解放 請求ノ件

(六月二十六日 ロンドン、ガゼット)

南米諸國法令

CARGOES OF GERMAN VESSELS IN BRAZILIAN PORTS.

His Majesty's Minister at Rio de Janeiro reports that for the purpose of obtaining the release of cargoes on board the German vessels which originally took shelter in Brazilian ports, the owners of such cargoes should forward the documents in support of their claims thereto to their representatives in Brazil, for presentation to the Inspector of Brazilian Customs. The documents must be authenticated by a Brazilian Consular Officer. It is added that cargo which may be cleared in transit for other countries is subject to payment of freight and transit dues.

Any further information on the subject which may be received from His Majesty's Minister will be published in the London Gazette.

Foreign Office, June 25th, 1917.

第六 米洲中立國會議開催ノ計畫

(外事彙報大正六年第九號)

(大正六年四月三十日附報告)

本月中旬南米諸邦ニ傳ヘラレタル報道ニ據レハ亞爾然丁共和國政府首唱者トナリ同國首府
ブエノス、アイレス市ニ米大陸中立諸國ノ一會議テ開キ世界大亂ニ對スル此等諸國政府ノ

方針ヲ整一ニセントスル計畫アリテウルグアイ共和國ハ直チニ之ニ參同ノ意嚮ヲ洩シ亞國
外務當局者ハ同會議開催ノ期遠カラスト語リタルコトヲ傳ヘタルヲ以テ右會議カ果シテ如
何ナル性質ノモノナリヤ之ニ參同ス可キ諸國ハ凡ソ何箇國ナリヤ將又愈々開催セラレ、時
期ハ何時頃ナリヤニ關シ南米諸國ノ外交官ニ就キ質シタルニ右ハ最初南米諸國若クハ拉丁
亞米利加諸國ノ會合ヲ目的トシ北米合衆國ノ如キハ全然之ヲ問題外ニ措キタル由ナルモ同
會議開催ニ關シ南米諸國ノ内意ヲ探リタル際伯國政府ハ若シ北米合衆國ヲモ加フルコト、
シ同國之ニ參同スルニ於テハ伯國モ之ニ賛成ナリト答ヘタルヲ以テ更ニ北米合衆國ヲ加ヘ
テ一種ノ全米會議ト爲サンコトヲ企テ其ノ意向ヲ探リタルニ同國ハ既ニ獨逸ト戰爭狀態ニ
入りタル後ナレハ他ノ中立諸國ト利害ヲ異ニシ却ツテ米大陸諸國ヲ悉ク自國ト同様ニ戰爭
ニ引入レントスル底意アリテ到底之ニ賛同ス可クモアラス左レハ伯國ノ會同ヲ得難キノミ
ナラス一面智利國ハ祕露國トノ間ニ多年結ンテ解ケサルタクナ、アリカ二郡ノ所屬問題ヲ
有スルカ爲メ此種ノ會議ニ關シテハ豫メ其ノ附議事項ヲ確知シタル上ニアラサレハ賛否ノ
決答ヲ與ヘサル方針ヲ持スルヲ以テ是亦賛否ハ未知數ニ屬シ所謂ABC三國ノ間ニ於テス
ラ既ニ意見ノ一致ヲ缺ケルヲ以テ右計畫ハ多分失敗ニ終ルナラントノ談話ナリキ尙ABC
三國ノ現態度ヨリ觀察スルモ伯國ハ既ニ獨逸ト國交ヲ斷絶シ今後ノ形勢如何ニヨリ何時戰
爭狀態ニ移ルヤモ圖リ難ク亞國ハ帆船 Monte Protjido 號ノ擊沈ニ關シテ強硬ナル對獨
抗議ヲ提出セル外自國諸港ニ繫留中ナル獨逸船舶ヲ占領シテ之ヲ一港ニ集中セシムル處置
ヲ執リタルニ拘ラス同國ノ輿論ハ局外中立ノ維持ニ傾キ居ルモノ、如ク智利國ニ至リテハ

徹頭徹尾局外中立ヲ守リ一步モ其ノ範圍外ニ出ツルヲ欲セサル現狀ナレハ現大戰ニ關シテノ此等三國ノ利害ハ其ノ一致ヲ見レコト甚タ困難ト察セラル尤モ此種ノ會議ハ北米合衆國カ未タ獨逸ト國交ヲ絶タサル以前例之ハ曩ニ墨國ノカランサ及エクワドール國等カ之ニ類似ノ提議ヲ爲シタル當時ニ於テ假リニ之ヲ南米ノ雄國タル亞國政府ヨリ提唱シタリトセハ或ハ成功シタルヤモ計リ難ケレトモ折角ノ亞國政府ノ計畫モ最早今日トナリテハ時機已ニ晚キニアラサルヤノ感アリ

第七 烏爾圭國ノ中立態度變更

(外事彙報大正六年第九號)

(大正六年六月二十八日附報告)

最近對獨及對米關係ニ於テ專ラ伯國ノ驕尾ニ附隨セル南隣ノ烏爾圭共和國カ伯國ノ例ニ倣ヒ本月十九日ヲ以テ一種ノ中立撤廢令ヲ發スルニ至レルカ同國ハ伯國ト其ノ趣ヲ異ニシ未タ獨逸帝國ト斷交シ居ラサルニ拘ラス米國艦隊若クハ其ノ一部分タル軍艦若クハ運送船ニ對シ烏國港ニ二十四時間以上ノ滯泊ヲ許スチ主眼トシテ發令シタルモノ、如シ其ハ同國新聞紙ノ所謂「米洲連帶協力令」ニシテ一種特別ノ性質ヲ有スルヲ以テ左ニ其ノ全文ヲ譯載ス
共和國大統領ハ烏爾圭政府カ數回ノ通牒中ニ其ノ外交政策ノ整調機タル米洲連帶協力主義ヲ宣明シタルコト本大陸中一國ノ權利ニ對スル侵害ハ仍チ爾餘ノ諸國モ亦其ノ權利ヲ

侵害セラレタルモノトシテ此等諸國ニ於テ整一共同ノ反抗ヲ惹起セシムヘキヲ了解セルコト、斯クノ如キ理想ノ實地有效ナル適用ヲ可能ナラシムル爲メ此點ニ關シ亞米利加諸國間ニ一ノ協定ヲ實現セシメントノ希望ヲ有スルヲ以テ大陸諸邦中其ノ中立ヲ拋棄スルノ止ムヲ得サルニ至リタル國々ニ對シ其ノ都度我カ國ノ同情ヲ表シツ、而カモ政府ハ其ノ行動ニ關シテハ觀望ノ態度ヲ採リタルコト、然ルニ此間ニ於テ上記協定ノ實現ヲ見ルニ至ラサリシヲ以テ其ノ權利防護ノ爲メ世界インターコネチネン戰テイネン争ニ干與セル米洲中ノ諸國ヲ交戰國ト見做シ待遇スルコトハ烏爾圭國ノ感情及確信ト相容レサルコト並ニ此見解ハ上院ノ見解ト一致セルコトヲ考量シ閣議ニ於テ左ノ如ク決定セリ

第一、米洲諸國中其ノ權利防護ノ爲メ他ノ諸大陸中ノ何レカノ國ト戰爭狀態ニ在ルモノハ其ノ何國タルヲ問ハス交戰國トシテ之ヲ待遇スルコトナカル可シト宣言スルコト

第二、本決定ニ抵觸スル規定ハ之ヲ履行セサル様命令スルコト

尙本規定ハ米洲諸國中現大戰ニ關係セルモノ而已チ目的トシ未タ參戰セサル伯國ヲモ包含セシムルモノト一般ニ了解セラレ居レトモ新ニ發令セサル限り直ニ之ヲ米洲外ノ聯合諸國ニ及ホスモノニアラサルコト勿論ナリ

第八 「米大陸以外ノ國ト戰爭狀態ニ在ル米大陸存在ノ孰レノ國ヲモ交戰國ト見做サス」トノ烏爾圭國ノ聲明及之ニ對スル論調

(外事彙報大正六年第九號)

(一) 烏國ノ聲明

(大正六年七月七日附報告)

本年六月十八日烏爾圭國政府ハ内閣會議開催ノ結果

米大陸ノ一國カ米大陸以外ノ一國若クハ數國ト戰爭狀態ニ在ルトキハ烏國ハ米大陸ノ孰レノ一國ヲモ交戰國ト見做サス

トノ宣言ヲ議決シ之ヲ發表セリ

烏國カ這般ノ態度ニ出タルハ他ニ幾多重大ナル理由存スヘキモ伯國ノ中立撤回ト同様之ヲ要スルニ刻下太西洋ヲ南下シツ、アル北米艦隊ノ歡迎ニ關シ其ノ行動ノ自由ヲ確保セントスルコト之蓋シ其ノ直接ノ動機タルヲ疑ハス夫ハ兎ニ角該宣言ノ發表ハ南米一般ニ互リ良好ナル反響ヲ與ヘ南米各國孰レモ之ニ對シ賛意ヲ表セリ就中智利國ノ如キハ國民ハ時局ニ對スル自國政府ノ態度ノ曖昧模糊ナルヲ憤慨シツ、アル折柄トテ一層之ニ對シ歡迎ノ意ヲ表セリ

本件ニ關シ賛否兩說ノ主タルモノヲ摘記センニ賛成側ノ理由トスル所ハ該聲明ハ亞米利加

同胞主義ヲ鞏固ニシ外國ノ侵略防止上全米團結ノ必要ヲ一層明晰タラシメタルモノニシテ其ノ措置タルヤ一見大膽ニ失スル所アル如ク思ハル、モ而カモ其ノ主義ヤ崇高ナリ亞米利加諸國ハ宜シク該聲明ヲ以テ向後其ノ國際政策ノ主義方針トセサル可ラスト論述セリ而シテ言論界ノ穩健ノ士モ亦之ニ賛意ヲ表セリ但シ彼等ハ其ノ聲明カ稍ヤ時機ヲ得サリシコトヲ遺憾トセルモノ、如シ

右聲明ハ歐洲協商側交戰國ニ對シ表面北米ト異ナル待遇ヲ與フルモノ、如ク認メラル、モ其ノ實質ハ寧ロ協商側全體ニ對シ利便ヲ謀ルヲ以テ其ノ目的トスルカ故ニ彼等ハ之ニ對シ何等ノ抗議ヲモ試ミス佛國ノ如キハ却テ之ヲ有利ノ宣言トシテ謳歌シタル觀アリ而シテ北米合衆國政府ハ特ニ烏國駐劄同國公使 Joffier 氏ニ烏國政府ノ好意ヲ感謝スヘキ旨ヲ命シ同公使ハ去二十二日特ニ烏國外務大臣ヲ訪問シテ自國政府ノ謝意ヲ傳達セリ

烏國政府ノ聲明

烏國政府ハ亞米利加團結主義ヲ以テ國際政策ノ基礎ト爲ス隨テ本大陸ヲ構成スル一國カ其ノ利權ヲ侵害セラレ、ヤ構成分子タル他國ハ之レヲ以テ自國ニ加ヘラレタル凌辱ト見做シ全米諸國カ舉ツテ共同一救ノ行動ニ出テンコトヲ欲ス

烏國ハ亞米利加諸國間ニ本主義ヲ實現セシムル爲メ一ノ協定ヲ締結センコトヲ希望ス而シテ烏國ハ曾テ米大陸ノ一國カ其ノ中立ヲ撤廢スルノ餘義ナキニ際シ該國ニ對テ滿腔ノ同情ヲ表示スルニ吝ナラサリシカ而カモ其ノ懷抱セル主義ニ到リテハ之ヲ理想トシテ留保シ其ノ實行ハ之ヲ時機ノ到來ニ俟チタリ

而シテ烏國政府ノ所見ニ依レハ該協定ニ到達スル迄ハ大陸諸國ハ利權擁護ノ目的ヲ以テ戰爭ニ參加セル亞米利加諸國ヲ以テ交戰國ト見做サ、ルコトヲ要ス

而シテ幸ニ上院カ此見解ニ一致スルヲ以テ政府ハ次ノ事項ヲ決定セン

第一、烏國政府ハ利權擁護上他大陸ノ一國又ハ諸國ト戰爭狀態ニ在ル亞米利加大陸ノ孰レノ邦國ヲモ交戰國ト見做サ、ルコトヲ聲明ス

第二、本令ニ背反スル法令規則ハ是カ實施ヲ中止スヘキ旨ヲ各官廳ニ命令ス

(二) 烏國ノ聲明ニ對スル論調

(イ) 贊成論

六月二十一日ノ智利山茶郷「メルクリオ」紙社説

烏國政府カ今回ノ決定ヲナスニ至リタル理由ハ左ノ如シ

一般的關係ヨリ觀察スレハ

今ヤ全世界ハ急轉シツ、アリ而シテ此推移ノ一大動機ハ言フ迄モナク戰爭ナリ戰爭ノ爲メ一ノ人種ハ他ノ人種ト混交シ國民ノ名聲信用ニハ著シキ變化ヲ來タシ新タナル主義法則ハ茲ニ産レ來リマ假令眞理ヲ保持スル一國アリトスルモ其眞理カ果シテ何ナルヤヲ指定スルコトハ難事ニシテ上帝ノ外能ク此判決ヲ爲シ得ルモノナシ而シテ一面カ假令眞理ヲ保持ストスルモ弱國ニシテ他ニ同情者ナク其眞理ヲ擁護スヘキ軍備ヲ缺カンカ其眞理ナルモノ果

シテ何ノ効力之アラン

世界ハ大戰爭毎ニ大ナル步調ヲ以テ進化シツ、アリ此步調ニ伴ヒ民主々義ハ國內ノ個人關係ニ止マラス文明世界諸國間ノ國際關係ヲモ支配スルニ至レリ而シテ本主義ハ虛無世界ヨリ傳來シタルモノニ非ス去リトテ之カ創設者ハ又彼ノロイド、ジョーシ氏、ブリアン氏、サランドラ氏乃至ハウイルソン氏等ニモ非ス全ク前陳大步調ニ隨伴シ發生シ來リタルモノニシテ該主義ヲ旗幟トシ鮮明ニ之ヲ標榜スルコトハ個人カ獨占ノ名譽トシテ之ヲ恣ニスルヲ得サルナリ蓋シ此主義タルヤ夫レ自身ノ生命ト實際ノ存在トヲ有スルモノナレハナリ今回烏國カ前記ノ如キ聲明ヲ爲スニ至リタルモ亦合衆國及伯國ノ例ニ倣ヒ其ノ權力範圍内ニ於テ自己理想ノ實現ヲ企圖シタルニ過キス

大陸的關係ヨリ觀察スレハ

南米多數ノ士ハ亞米利加ノ分割ヲ杞憂ス而シテ彼等カ分割ト稱スルハ外人ノ殖民ト密接ノ關係ヲ有ス彼ノ獨逸ノ學者 Otto Richard Jannenberg 其ノ著書 Gross Deutschland 於テ此事ヲ記述論議シ居ルカ吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ斯カル企圖ハ一種ノ夢想ニ外ナラス而シテ其夢想ノ果シテ實現セラレヘキモノナリヤ否ヤハ吾人ノ知ル所ニ非スト雖モ兎ニ角獨逸カ墨西哥ニ向ヒ北米ニ對シテ挑戰セシメント欲シ又ハ日本ヲ懲懲シテ靜謐無事ノ大陸中ニ於テ不安不靜ノ狀態ニ在ル邦土ニ向ツテ其ノ手ヲ染メシメント欲シタル其ノ活動振ハ看過スヘカラサル事實ナリ

夫ハ兎ニ角吾人カ大陸ノ秩序ヲ維持スルニ汲々タル理由ハ明瞭ナルモノニシテ合衆國ノ干

涉(參戰ノコト)伯國ノ中立撤回ノ如キハ取りモ直サス亞米利加大陸ノ諸國カ其ノ團結及領土ノ保全ヲ實際的ニ初メテ證明シタルニ外ナラス苟モ米大陸ニ位スル以上ハ此團結主義ヲ承認シ實際問題ノ發生ニ際シ其ノ効果ヲ收ムルニ努メサレハ他日自國カ他ノ同情協力ヲ必要トスル場合ニ當リ其ノ利益ヲ享受シ能ハサルハ甚タ賭易キノ道理ナリ烏國今回ノ態度ハ蓋シ此原因ニ職由ス

南米カ今後經濟的競争場裡ノ中心點タルヘキコトハ疑ヲ容レサル所ニシテ烏國ハ此競争ニ對シ其ノ領土ノ保全ト安寧ナル獨立トヲ維持セント欲シ斯カル政策ニ出テタルナルヘシ「モンロー」主義ノ如キモ時勢ニ應シ其ノ意義色彩ヲ異ニスルハ勿論ナリ當初ニ於ケル同主義ハ弱肉強食ヲ意味シ中南米ヲ通シテ反對ノ聲甚タ高カリシカ彼ノABC協定成立ニ際シルーズヅエルト及ウイソソソカ爲シタル「モンロー」主義ノ聲明ハ却テ世人ノ歡迎ヲ受ケ各國孰レモ該主義ヲ以テ領土保全上緊要ナルモノト認メ其聲明ニ賛意ヲ表シタリ

一九一五年六月十日智利大統領パロス、ルコハ言ヘリ近來接近政策ナルモノヲ唱道スル者アリ是亞米利加諸共和國ハ之ニヨリ其ノ利權ノ尊重ニ向ツテ一大保證ヲ得ルニ至レリ而シテ其利權中最モ緊要ナルモノハ大陸ノ保全是ナリ云々ト

烏國ハ右等幾多ノ問題ヲ研究シ遂ニ這般ノ態度ニ出テタルモノナルヘシ或者ノ如キハ絕對的中立說ヲ擲論シテ曰ク是人カ土中ニ一穴ヲ穿テ頭部ヲ其ノ中ニ容レ體部ヲ外ニ露ハシツ、砲彈ノ飛來ヲ避ケントスルニ異ナラスト

亞國國際法學者ノ評

亞國國際法學者ノ說ニ曰ク今般烏國カ採リタル態度ハ同胞主義及亞米利加團結主義ノ表彰トシテハ實ニ吾人ノ同情ニ値ス但シ其ノ聲明ノ時機カ北米艦隊ノ來航而カモ其ノ到著チ眼前ニ控ヘ稍ヤ壓迫セラレタル如キ氣味アルハ吾人ノ甚タ遺憾トスル所ナリ
尤モ烏國這般ノ態度ハ亞國ニモ影響スル處甚タ多大ニシテ今回來航ノ北米艦隊ハ必スラ、ブラタ河ニ週上スヘク然ル上ハラ、ブラタ河ノ管轄權及其ノ支配ニ關シ烏亞兩國間ニ國際問題ヲ惹起シ亞國ナシテ特殊ノ地位ニ立タシムルヲ免レス故ニ亞國タルモノ今ニ於テ豫メ之ニ應スヘキ自家ノ態度ヲ決定シ置クノ要アリ云々ト

烏國諸新聞ノ評

「エル、デイヤ」紙曰ク本聲明ハ烏國及其ノ政府ノ名譽ヲ表彰スル所ノ大記録タリ實ニ此聲明タルヤ全米團結主義ニ對スル大膽ナル政策ニシテ烏國カ南米共和國ノ理想の觀念ノ實現ニ向ツテ貢獻シタル一大紀念物ナリ而シテ又本聲明ハ「チュートン」帝國主義及專制主義ニ對シ其ノ自由ト權利トヲ擁護スル爲メ蹴起シタル亞米利加諸國ノ軍艦ニ對シ交戰中モ猶友邦國ノ待遇ヲ賦與シタル道德上ノ大意義ヲ含蓄セル所ノ歴史的一大文字ナリト「トリブナ、ポブラル」紙ハ曰ク我政府ハ今回ノ聲明ニ依リ歐洲戰爭開始以來發生セル幾多ノ難問題ヲ善ク論理的ニ解決セリ這般ノ宣言ハ政府ノ斷手タル態度ヲ示スモノニシテ亞米利加團結ノ理想實現ニ向ツテ一步ヲ進メタルモノト謂フヘシ而シテ本宣言ノ實際的效果ハ今後ノ事實ニヨリテ證明セラルヘキモノトス思フニ刻下我政府ノ執ルヘキ態度トシテハ之ヨリ他ニ適確ナルモノナカルヘシ而シテ米大陸ノ實際的團結ヲ希望スル諸國ハ必ス斯ク了解スルニ寄

南米諸國法令

ナラサルヘシト

烏國前外務大臣ホアキン、サルテラン氏ノ評

氏ハ論シテ曰ク亞米利加大陸カ其ノ運命擁護上共同團結ノ精神ヲ表彰シ壓迫ニ苦ム所ノ國民ヲ解放シ之ヲ救助スルコトヲ其ノ政策トシ聲明シタル以上ハ其ノ苦痛狀態ニ在ル國民ノ何タルヲ問ハス吾人ハ其ノ救済ニ努力セサルヘカラス蓋シ權利ハ一ニシテ人ニヨリ異同アルヘキ理由ナケレハナリ權利ノ侵犯ハ何處ニ行ハル、モ文明ハ毎ニ其ノ苦痛ヲ感ス我政府今回ノ行動ハ自衛ノ目的ヲ以テ威力ニ對シ抗議ヲ試ミタルモノニシテ吾人ハ之ニ對シ全然賛成ヲ表セント欲ス云々ト

(ロ) 不賛成論

烏國前外務大臣アントニオ、バッキニ氏ノ評

氏ハ「北米艦隊來航ノ報道ニ起因シ而シテ之ノミノ事實ヲ基礎トシ烏國政府ノ聲明シタル國際法ノ根本的定義ト其ノ作用ニ關スル新奇ナル規定」ナル表題ノ下ニ新聞ニ自家ノ意見ヲ發表シ左ノ如ク論セリ

「我政府カ探リタル態度ニシテ未タ嘗テ今回發表セラレタル聲明程奇々怪々ナルモノ蓋シ之アラサルヘシ

其ノ前文ニ於テ上院ノ協賛ヲ得云々ナル語ヲ挿入セルコトハ上院ニ憲法カ承認シ居ラサル而カモ不必要ニシテ且不道理ナル權能ヲ附與シタルト同様ノ效果ヲ有セシメタリ

此際此ノ如キ權能ヲ上院ニ附與スルコトハ憲法ニ規定セララル權能ノ創設及附與ヲ意味ス北米合衆國艦隊ニ友邦ノ待遇ヲ與ヘ之ヲ歡迎スルコトハ吾人ノ義務ニシテ何等之ニ向ツテ異議ヲ唱フルノ餘地ナカラシ然レトモ吾人ハ曩ニ中立ヲ恪守スヘキコトヲ聲明セリ果シテ然ラハ北米艦隊ヲ歡迎スルニ當リテハ彼ノ所謂「二十四時間ノ法則」ハ如何ニ解決スルヲ得ヘキヤ只此一事ヲ以テ這回ノ態度ヲ探リタリトセハ實ニ其ノ輕卒ナルニ一驚ヲ喫セサルヲ得ス

中立宣言ト併行シテ此種ノ聲明ヲ爲スコトハ不可能ナリ今ヤラ、ブラタ河ノ兩岸ニハ中立又ハ平和ノ精神ト相容レサル緊張セル空氣カ磅礴シツ、アルニ非スヤ

世人動モスレハ現戰爭ニ參加セサルモノハ宛モ劣等人ニシテ人格モナク氣力モ名譽モナキ男子ノ如ク思惟シ全然吾人ト無關係ナル憎惡ヲ我國民間ニ鼓吹シ滑稽ナル使者ノ役目ヲ演セントスル傾向ナキニシモアラス

其ノ結果較モスレハ常ニ吾人ノ標榜セル自由平和正義ノ精神ヲ忘却シ我永年涵養シ來レル文化ノ退歩ヲ招致シテ顧ミサル者アリ思ハサルモ甚タシト謂フヘシ夫レ中立ノ宣言ハ其ノ領域ニ於テ交戰國ノ兵士募集禁制、戰時禁制品ノ捕獲禁止等ノ結果ヲ伴フモノナリ

由是觀之ラ、ブラタ河中ニ於テ此等中立ニヨリ發生スル所ノ權利ノ執行ハ之ヲ如何ニセントスル乎戰鬪員及戰需品ヲ搭載セル交戰國船舶即チ御用船ハ我港内ニ何時間碇泊スルヲ得ルモノナリヤ

ト反問ヲ加ヘ大ニ冷評ヲ試ミタル後更ニ語ヲ轉シテ述ヘテ曰ク

本宣言ハ「亞米利加ハ亞米利加ノ亞米利加ナリ」テフ所謂「モンロー」主義ノ格言ニ改正
修補ヲ加ヘタルモノナラン然レトモ「亞米利加ノ亞米利加」トハ北米ノ亞米利加ナルモノ
ナリヤト

斯ク嘲弄的質疑ヲ試ミ當局者揶揄ヲシタル後更ニ論シテ曰ク
烏國ハ幾世紀ニ互レル國際法ノ根本法則ニ變更ヲ加ヘ中立ノ存在ハ之ヲ認メ乍ラ交戰國ヲ
廢棄セントスルモノナリ但シ戰爭ヲ廢棄スル能ハサルハ遺憾ニ非スヤ云々ト

第九 ベルギー國在泊獨船ニ監視兵ヲ置ク件

(十月一日 ニューヨーク、タイムズ)

PERU GUARDS TEUTON SHIPS

NAVAL OFFICERS PUT ABOARD—PARTS OF MACHINERY MISSING.

Lima, Peru, Sept. 30.—Peruvian naval forces yesterday were placed on board
five German steamships and three German sailing vessels which have been laid up
at Callao since early in the war.

Parts of the machinery were found to be missing.

大正三—六 年 戰 役 各國海戰關係法令第十五輯下 終

大正八年二月一日印刷
大正八年二月四日發行

海軍大臣官房

印刷者 東京市日本橋區兜町二番地 神谷岩次郎

印刷所 東京市日本橋區兜町二番地 東京印刷株式會社

151
60

終